



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	〔展示〕 遠友夜学校の歴史
Citation	北海道大学大学文書館年報, 16, 72-136
Issue Date	2021-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/81436
Type	other
File Information	16_4.pdf



< 展 示 >

遠友夜学校の歴史

1. 展示の解説

「遠友夜学校」は、札幌農学校教授の新渡戸稲造と妻メアリーが、札幌市内に1894年創設した、貧困等で昼間に通学できない子どもたちのための学校（1916年私立学校に認定）である。学校の運営には、創設から1944年閉校に至るまで、札幌農学校～北海道帝国大学の教官・卒業生が中心的な役割を果たし、多くの学生が夜学校教師として学校教育に携わった。

2014年7月、札幌市より北海道大学が「遠友夜学校関係資料」の寄贈を受け、大学文書館において資料を整理・保管し、利用に供することとなった。資料の利用（閲覧、撮影利用）は大学文書館内の閲覧室で実施し、遠友夜学校の歴史にまつわる展示は、同月25日より企画展示を3回開催し、2016年度より大学文書館1階展示ホールにて常設展示として行っている。なお、展示にあたっては、資料保護のため、写真パネルと資料レプリカを作成し、掲示・陳列している。

各展示の名称・会期・構成等は、下記のとおりである。

- ① 展示名：「《企画展示》遠友夜学校を支えた人々」
会期：2014年7月25日～2014年9月4日
会場：百年記念会館2階展示ホール
構成：(1)歴代の校長（新渡戸稲造、新渡戸メアリー、半澤洵）、(2)歴代の代表理事（宮部金吾、大島金太郎、有島武郎、蠣崎知二郎、野中時雄、小谷武治、半澤洵）の紹介
- ② 展示名：「《企画展示》遠友夜学校略史——50年の変遷」
会期：2014年9月6日～2017年11月20日
会場：百年記念会館2階展示ホール
構成：(1)「前期（1894-1920年）小学校の授業を行っていた時代」
(2)「後期（1921-1944年）中等学校の授業が中心となった時代」
- ③ 展示名：「《企画展示》“With malice toward none, with charity for all”
——遠友夜学校の歴史」
会期：2015年1月9日～2015年3月31日
会場：附属図書館2階正面玄関ロビー
構成：(1)「遠友夜学校の創立～すべての人に慈愛を」
(2)「初等部の活動～是こそ楽しき極みなれ」

(3)「中等部の新設～夜学校はいつも君達の友です」

(4)「戦争の影と閉校～「学問より実行」」

④ 展示名：「《常設展示》遠友夜学校の歴史」

会期：2016年6月4日～

※2020年4月17日より、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、館内
展示を当分の間、休止中

会場：大学文書館1階展示ホール

構成：「新渡戸稲造」の紹介コーナーを付設した常設展示。3回の企画展示を再編するとともに、後藤忠（夜学校中等部卒業生）の写真帖（後藤捷裕氏旧蔵、中川厚雄氏より2015年3月受贈）から写真パネルを新たに作成し、掲示している。

2. 展示風景



第Ⅰ期企画展示



第Ⅱ期企画展示



第Ⅲ期企画展示



常設展示

3. 展示パネル図録

企画・常設展示で掲示した主な展示パネルについて、(1) 展示概要パネル、(2) 遠友夜学校の略年譜パネル、(3) 人物紹介パネル、(4) 回想パネルは次のとおりである。

(1) 展示概要パネル

遠友夜学校の歴史

“With malice toward none, with charity for all”

—夜学校はいつも君達の友です。

遠友夜学校では、貧困や仕事、家庭の事情などのため、学校で学ぶことのできない子どもたちに向けて、そう呼びかけました。

札幌農学校教授の新渡戸稲造と妻メアリーは、1894年、札幌に遠友夜学校を開きました。学ぶ意欲を持ちながら、昼間は学校に通えない子どもたちのための夜学校です。市民の協力の下、宮部金吾・有島武郎・半澤洵といった北大の教員が学校を運営しました。教師を務めたのは北大生でした。その活動は、戦争のために1944年に閉校するまで、50年間に及びます。

生徒はどんな風に学んでいたのでしょうか。北大の学生・教員はどんな思いで活動していたのでしょうか。ここでは、遠友夜学校が所蔵していた資料や、卒業生が大切に保管していた資料などを展示し、遠友夜学校がどんな学校であったのかを紹介します。



(2) 略年譜パネル

遠友夜学校 略年譜

1890 年	札幌独立基督教会有志が「豊平日曜学校」を設立
1894 年	新渡戸稲造・メアリー夫妻が日曜学校を引き継ぎ、夜学校を開設 (新渡戸稲造校長、後に「遠友夜学校」と命名)
1895 年	メアリーの寄附により、敷地・建物を購入
1897 年	尋常科・高等科設置、毎夜 2 時間授業を実施 10 月、新渡戸夫妻が札幌を離れる
1898 年	宮部金吾が代表に就任 (～1905 年)
1899 年	第 1 回卒業生を送り出す
1900 年	文部省令に準じた科目の授業を開始
1905 年	大島金太郎が代表に就任 (～1909 年)
1908 年	4 月、文部省令に準じ、高等科 1,2 年を尋常科 5,6 年と改称
1909 年	1 月、有島武郎が代表に就任 (～1914 年) 6 月、新渡戸夫妻来校
1910 年	校舎増改築、新たに高等科を編成
1914 年	11 月、蠣崎知二郎が代表に就任 (～1919 年)
1916 年	3 月、北海道庁から私立学校の認可を受ける 4 月、高等科を本科、尋常科を予科と改称
1919 年	7 月、野中時雄が代表に就任 (～1920 年)
1920 年	11 月、小谷武治が代表に就任 (～1921 年)
1921 年	4 月、予科・本科を初等科 (初等部)・高等科 (廃止予定)へ改組し、 普通科 3 年・補習科 1 年の中等科 (中等部) を新設 6 月、「有隣夜学校」が独立して学校組織が分裂 同月、半澤洵が代表に就任 (～1944 年)
1923 年	4 月、中等部補習科を廃止し、初等部補習科を設置 8 月、北海道庁から財団法人の認可を受ける (代表理事半澤洵)
1924 年	1 月、生徒自治会を設立 3 月、中等部第 1 回卒業生を送り出す
1926 年	4 月、高等科を廃止し中等部 4 年制とする
1928 年	2 月、中等部生徒を中心に図書部を設立
1931 年	5 月、新渡戸夫妻来校
1933 年	10 月、新渡戸稲造死去
1934 年	新渡戸メアリーが第 2 代校長に就任
1938 年	9 月、新渡戸メアリー死去 半澤洵が第 3 代校長に就任
1944 年	3 月、遠友夜学校を閉校

(3) 人物紹介パネル



に と ぺ いなぞう
新渡戸 稲造 (1862-1933 年)

岩手・盛岡出身

1881 年札幌農学校卒業(第2期生)

札幌農学校教授、台湾総督府技師、東大・京大教授、国際連盟事務次長

遠友夜学校創立者、初代校長(1894-1933 年)

札幌農学校卒業後、アメリカ・ボルチモアのジョンズ・ホプキンス大学留学中の1885年に、貧しい家庭の子どもたちや働く少年たちのために“night school”を設立する夢を語っている。このころ、メアリーと出会い、後に結婚する。帰国した1891年に札幌農学校教授となり、農政学・農業史を教授した。1894年にメアリー夫人と共に遠友夜学校を創設し、校長に就任した。1897年に札幌を離れ、台湾総督府技師、東京・京都両帝国大学教授、第一高等学校長、国際連盟事務次長などを務めた。離札幌後も、校長として遠友夜学校をたびたび訪れ、講演などを通じ、在学生に大きな影響を与えた。

(写真: 大学文書館蔵)



新渡戸メアリー (1857-1938 年)

アメリカ・フィラデルフィア出身

アメリカ名はメアリー・バターソン・エルキントン

(Mary Patterson Elkington)、日本名は萬里子
遠友夜学校創立者、第2代校長(1934-1938 年)

アメリカ留学中の新渡戸稲造と出会い、稲造がアメリカの大学で論文を執筆する際には、手助けをした。1891年に稲造と結婚して日本へ渡航した。1893年にメアリーの実家であるエルキントン家から贈与された資金を基に、翌1894年、稲造と共に遠友夜学校を設立した。札幌を離れた後も、たびたび夫妻で遠友夜学校を訪れ、その活動を支え続けた。1933年に稲造が死去すると、第2代校長に就任した。メアリーは、『武士道』刊行の契機を与えるなど稲造の活動をサポートする一方で、日本の先駆的な動物愛護団体である「日本人道会」の理事長も務め、社会慈善活動に熱心であった。

(写真: 大学文書館蔵)



みやべ きんご

宮部 金吾 (1860-1951 年)

東京・下谷出身

1881 年札幌農学校卒業 (第 2 期生)

札幌農学校・北海道帝国大学教授

遠友夜学校代表 (1898-1905 年)

新渡戸稲造とは札幌農学校第 2 期生として同期生、農学校教授として同僚であり、終生の親交が続いた。植物病理学を専攻し、エイサ・グレイ、カール・ヨハン・マキシモヴィッチといった世界的植物学者と交流を持ち、学界において先進的な植物学研究を続けた。一方、札幌独立基督教会で中心的な役割を担い、学生のための「青年寄宿舎」の運営に舎長・理事長として関わるなど、学外における事業にも積極的であった。遠友夜学校の創設においても新渡戸夫妻をサポートし、夫妻が札幌を離れるに及んで、当地で遠友夜学校運営の監督責任を担う代表に就任した。

(写真: 大学図書館蔵)



おおしま きんたろう

大島 金太郎 (1871-1934 年)

長野県上諏訪郡出身

1893 年札幌農学校卒業 (第 11 期生)

札幌農学校教授、北海道帝国大学教授、台湾

総督府技師、台北帝国大学理農学部長

遠友夜学校代表 (1905-1909 年)

札幌農学校で農芸化学を学び、卒業後、留学を経て、農学校教授となった。その後、北海道庁農事試験場長を兼任し、さらに台湾総督府技師となり、農事試験場長、糖業試験場長、中央研究所農業部長、台湾総督府高等農林学校長を歴任し、台湾総督府における札幌農学校・北大閥の中心人物として、札幌と台湾を強く結び付ける役割を果たした。さらに、台北帝国大学設立に関わり、開学後は理農学部長を務めた。札幌農学校在学時代、創立したばかりの遠友夜学校で教師を務め、1903 年に留学から帰国すると、代表の任を当たった。

(写真: 大学図書館蔵)



ありしま たけお

有島 武郎 (1878-1923 年)

東京府小石川出身

1901 年札幌農学校卒業 (第 19 期生)

東北帝国大学農科大学予科教授、文筆家

遠友夜学校代表 (1909-1914 年)

札幌農学校に入学し、予科時代に英語等を習った新渡戸稲造から大きな感化を受けた。本科では農業経済学を専攻した。留学を経て、札幌農学校を改組した東北帝国大学農科大学の予科教授となり、英語・英文学を教授した。同時に創作活動を行ない、1917 年に農科大学を辞した後は、精力的に作品を発表した。小説『星座』は札幌農学校在学時代の様子を描いている。遠友夜学校には、在学時代から同期の半澤洵、蠣崎知二郎らと共に教師として関わり、校歌の作詞も行なった。1909 年に代表に就任、この時期に校舎改修や施設整備、補助金や寄付による学校会計の強化が進んだ。

(写真: 大学文書館蔵)



かきざき ともじろう

蠣崎 知二郎 (1877-1945 年)

北海道・函館出身

1901 年札幌農学校卒業 (第 19 期生)

北海道庁技師、北海道庁立空知農業学校長、

実業補習学校教員養成所長

遠友夜学校代表 (1914-1919 年)

松前藩大名家に連なる蠣崎氏の家柄。札幌農学校に入学し、予科で新渡戸稲造から英語・英文学など学び、本科では農業経済学を専攻した。卒業後、台湾総督府などで殖民事業に携わり、熊本県立球磨農業学校教員を務めた。1907 年、札幌に戻って北海道庁技師となり、1919 年に岩見沢の庁立空知農業学校(現在の岩見沢農業高校)校長、後に庁立実業補習学校教員養成所(北海道教育大学岩見沢校)所長を務めた。札幌農学校在学時代に遠友夜学校教師を務めた。1914 年に代表に就任し、蠣崎代表時代に北海道庁から私立学校として認可を受けた。

(写真: 大学文書館蔵)



の な か と き お

野中 時雄 (1893-1960 年)

京都府京都市出身

1917 年東北帝国大学農科大学卒業

満鉄調査役・本社参与、大連農事株式会社社長、兵庫県立兵庫農科大学教授

遠友夜学校代表 (1919-1920 年)

東北帝国大学農科大学で農学を専攻し、卒業後、北海道庁農事試験場に勤めた。1920 年に満鉄（南満州鉄道株式会社）に入社し、大連を中心に長く調査部門に勤務し、調査役や本社参与を務めた。戦時中は大連農事株式会社社長を務め、戦後は兵庫県立兵庫農科大学（現在の神戸大学農学部）教授に就任した。1960 年に「日本移民論」で農学博士号を取得した。東北帝国大学農科大学予科時代、有島武郎教授に学び、遠友夜学校教員を務めるようになった。蠣崎代表時代に常任幹事として校務管理を担当した。1919 年に離札する蠣崎知二郎から代表の任を引き継いだ。

（写真：大学文書館蔵）



おだに た け じ

小谷 武治 (1872 年生、没年不詳)

福井県出身

1897 年札幌農学校卒業（第 15 期生）

台湾総督府台中庁技師、東京女子大学幹事、北海道帝国大学予科教授

遠友夜学校代表 (1920-1921 年)

札幌農学校入学前から新渡戸稲造に強く心酔し、農学校でも師事した。畜産学を専攻し、卒業後は各地の師範学校・農学校・中学校の教員となったほか、一時期は台湾で技師も務めた。1918 年に新渡戸が学長を務める東京女子大学幹事を務めた。1920 年からは 20 年間に渡って、北海道帝国大学予科で英語を教授した。新渡戸が遠友夜学校を創設した農学校在学時代に教師を務めた。1920 年に代表に就任し、この時期に従来の初等科に加え中等科を設置するに至った。小谷は新渡戸が逝去した際の追悼で、遠友夜学校を「先生の札幌に遺された絶好の一記念碑である」と述べている。

（写真：大学文書館蔵）



はんざわ じゅん

半澤 洵 (1879-1972 年)

北海道・札幌出身

1901 年札幌農学校卒業 (第 19 期生)

東北帝国大学農科大学・北海道帝国大学教授

遠友夜学校代表 (1921-1923 年)、代表理事

(1923-1944 年)、第 3 代校長(1938-1944 年)

有島、蠣崎らと同期生として札幌農学校に入学した。卒業後、留学を経て東北帝国大学農科大学・北海道帝国大学の教授となり、応用菌学を専攻した。納豆菌研究により、衛生的な納豆製法を考案し、製品化と普及に努めた。在学時代から遠友夜学校の教師を務め、会計を担当するなど学校運営にも当たった。1921 年から代表の任に当たった。1923 年に北海道庁から財団法人の認可を受けた後は、代表理事と庶務部長を兼ねた。1938 年、新渡戸メアリーが死去すると、第 3 代校長に就任した。後半期の遠友夜学校運営を取り仕切った。

(写真: 大学文書館蔵)

(4) 回想パネル

岩波六郎 (札幌農学校第 19 期生、夜学校教師 1899-1901 年)

“遠友夜学校の草創期”

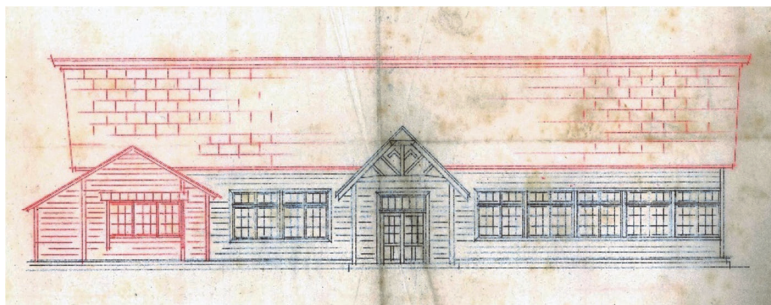
(遠友夜学校で) 当時一緒に先生をしたのは、木村徳藏、蠣崎知二郎、井口為二郎、森本厚吉博士、有島武郎など。一、二人を除いていずれも苦学生で、一日一時間受け持ち、一カ月の報酬は三円であった。当時、札幌農学校の授業料は一カ年十五円。これを二回に分納したが、我々は急納者として事務所前に掲示される常連であった。当時、新渡戸先生が生徒監であったので、夜学校の報酬と引き替えに、先生に立て替え払いをしてもらった。夜学校は豊平川畔にある普通の二階住宅で、階下の畳の二室が教室で、長い机にすわって勉強する寺子屋式のものであった。生徒は男女合わせて三十名位で、職工や子守りなどが多くいた…先生も生徒も真面目に勉強した。

(『札幌遠友夜学校』1964 年より、写真: 川嶋一郎関係資料)



遠友夜学校男子生徒と教師たち (1905 年 6 月 15 日)

4. 校舎建物の変遷



遠友夜学校旧校舎の正面図(1928年頃)

部屋数2つで始まった遠友夜学校は、増改築工事を経て、1910年12月には約120人収容の校舎(教室4室・教師控室・留守室2室、74坪)に、1921年4月には約250人収容の校舎(教室10室・当直室・小使部屋・物置、約160坪)となった。
(半澤洵関係資料0164)



旧校舎(1910年頃)

(遠友夜学校関係資料0211所収)



旧校舎(1911年頃)

(遠友夜学校関係資料0215所収)



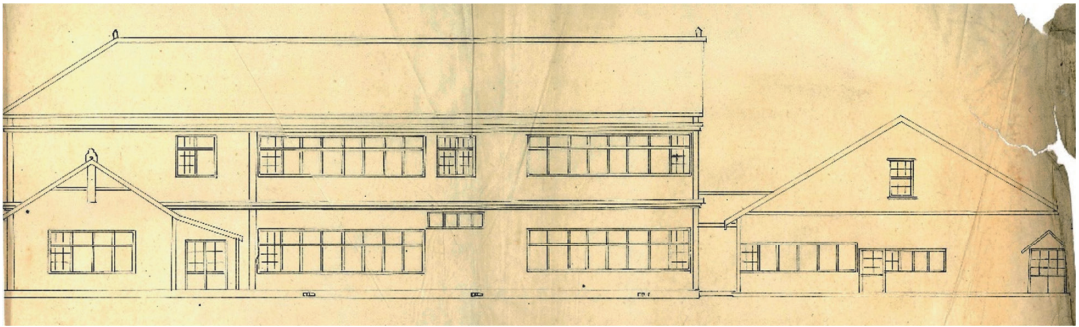
旧校舎(1910-1920年代)

(沿革写真No.100-146)



旧校舎(1923年頃)

(遠友夜学校関係資料0107-007)



遠友夜学校校舎増築工事側面図(1928年頃)

1929年4月、旧校舎と廊下でつながるように、敷地西側に増築工事が施され、2階建ての新校舎(建坪約153坪)が竣工した。
(半澤洵関係資料0167)



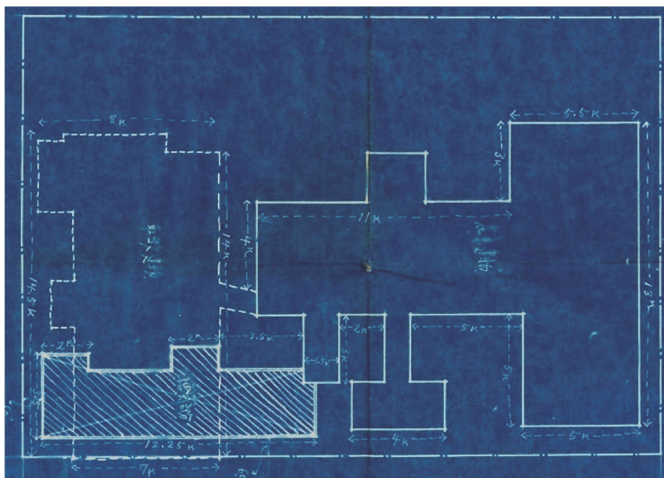
新校舎(1929年頃)

(遠友夜学校関係資料 0039-03)



新校舎全景(1936年頃)

(遠友夜学校関係資料 0055 所収)



校舎平面図(1936年頃)

1935年11月、旧校舎を解体した古材を利用し、2階建ての校舎(建坪約68坪)が増築された。新校舎は、「遠友寮」と称する職員宿舎が大部分を占め、事務室・電話室・小使室・作法室を有した。新校舎全景写真では、1929年新築校舎の背後に、廊下でつながった1935年増築校舎が見られる。

(半澤洵関係資料 0159)

5. 陳列資料目録

I. 前期（1984-1920年）～小学校の授業を行っていた時代～	
I-01	宮部金吾宛て太田稲造書簡（1885年11月13日・ボルチモア発） 沿革資料／宮部金吾旧蔵書簡-新渡戸009〔展示期：③・④〕
ジョンズ・ホプキンス大学留学中の太田（新渡戸）稲造は、“Sapporo Academies”の構想として、(1)成人教育、(2)青少年の高等普通教育、(3)貧しい家庭の子ども(children of poor parents)や日雇い労働者の子弟(laborers' boys)を対象とした夜学校(night school)を親友宮部に語っている。	
I-02	宮部金吾宛て新渡戸メアリー書簡（1898年11月24日・カリフォルニア発） 沿革資料／宮部金吾旧蔵書簡-新渡戸031〔展示期：③〕
1897年10月、新渡戸夫妻は療養のため離札した。メアリー夫人(Mary Nitobe／新渡戸萬里子)は、遠友夜学校を“Toyohira school”（豊平学校）と呼び、遠友夜学校教師の健康や俸給など、夜学校の運営状況を気に掛け、夜学校への送金を続けた。	
I-03	宮部金吾宛て新渡戸稲造書簡（1899年1月30日・カリフォルニア発） 沿革資料／宮部金吾旧蔵書簡-新渡戸032〔展示期：①・③・④〕
新渡戸稲造の離札後、遠友夜学校の運営は、親友の宮部金吾に託された。カリフォルニアからの書簡には、新渡戸が宮部への感謝をあらわしている。 ……僕兩人の会計のみならず遠友学校迄で、君の世話となり、大に難有〔有り難し〕、定めし面倒くさからふ、僕ならトても出来ぬ事だ……	
I-04	新渡戸稲造校長宛て中江汪報告書（1899年） 沿革資料／遠友夜学校関係資料0062・0063〔展示期：③〕
中江汪（札幌独立基督教会牧師・札幌基督教青年会長）は、豊平日曜学校の頃から学校運営・管理に携わってきた人物。会計報告書は、「家賃報告」、「看病婦資金支出報告」、「資金支出報告」の三報告からなり、教師・管理人の給与、備品費、貧困家庭への看護婦による巡回慰問費(葉代)、奨励会費・運動会費などが計上されている。	
I-05	メアリー夫人が送った50ドル国際為替の控え（1900年5月14日） 沿革資料／宮部金吾旧蔵書簡-新渡戸039〔展示期：①〕
メアリー夫人が、故郷フィラデルフィアから、遠友夜学校のために宮部金吾宛てに送った国際為替(international money order)の控え。宮部のもとには、メアリー夫人の指示により、弟W.エルキントン(William T. Elkinton)も国際為替により送金している。	
I-06	宮部金吾宛てW. T.エルキントン書簡（1900年7月20日・フィラデルフィア発） 沿革資料／宮部金吾旧蔵書簡-新渡戸040〔展示期：③〕
50ドルの国際為替の控えには、“the Ragged School”（貧困等で教育を受けられない子どもたちへの無償の学校）への寄附と理解している由、ウィリアムによる送り状が添えられた。	
I-07	遠友夜学校草創期の札幌市街（1901年） 沿革資料／「札幌全図 明治三十四年」〔展示期：①・②・③・④〕
遠友夜学校草創期の頃の札幌市街図。遠友夜学校は図中に記した丸印に所在(南4条東4丁目)。当時の札幌農学校は、北1～北2条西1～西2丁目にキャンパスがあり、附属農場が札幌停車場以北に広がっていた。市街図には「農学校」(札幌農学校)、「北海道庁」、「豊平館」、「基督教会」(南3条西6丁目、札幌独立基督教会)などの記載もみられる。	

I-08	寄宿舎帰舎への遅刻証明書(1900年7月13日)
	公文書／札幌農学校簿書0696〔展示期：④〕
I-09	遅刻御届(1900年12月27日)
	公文書／札幌農学校簿書0696〔展示期：①・③〕
遠友夜学校教師を務めた札幌農学校生たちは、夜学校の校務のため、農学校寄宿舎の門限に間に合わず、夜中に帰舎することが多々あった。農学校の書類には、農学校生(蠣崎知二郎、瀧臣弼、木村徳蔵、半澤洵)を留め置いた夜学校から、農学校舎監宛てに出された届出が残っている。	
I-10	半澤洵「札幌遠友夜学校の懐古」
	沿革資料／半澤洵関係資料(前川2009)0046〔展示期：①〕
半澤洵(札幌農学校第19期生)が遠友夜学校草創期を回想したもの。旧校舎(1階には教室2室と留守番部屋、2階には2部屋で事務室・教師控室)の思い出、男子生徒の修養会「倫古龍会」(リンコン会)は同期の蠣崎知二郎、女子生徒の修養会「堇会」(スマレ会)は同じく同期の瀧臣弼・木村徳蔵による創設であると語っている。	
I-11	『文の園』第2号(1906年7月)
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0172〔展示期：②〕
I-12	『文の園』第13号(1907年2月)
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0173〔展示期：④〕
『文の園』は、高等科の女子生徒が、作文の進歩と生徒間の親睦を深める目的で始めた回読式の手作り冊子。1905年秋頃に女子生徒が作文を回覧、翌年に『文の園』と題して作文を綴った冊子を出し、1907年には「羊会」(ひつじ会)として団体を組織し、規則・幹事を整えて、毎月2回定期発行することとなった。	
I-13	作文「友に夜学校へ入学を勧むる文」(『文の園』第2号、1906年7月)
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0172〔展示期：②〕
当初、『文の園』では、同一の題目で、女子生徒たちが無記名で作文を練習していた。題目は、生徒にとって身近な事柄が選ばれた。第2号では、「虫声を聴きて」、「指の働」のほか、昼間働いている友人を夜学校に勧誘する文章を手紙形式で練習している。	
I-14	松村介石『阿伯拉罕 倫古龍』(1900年発行)
	沿革資料／刊行物〔展示期：③・④〕
「阿伯拉罕倫古龍」は、エイブラハム・リンカーン(Abraham Lincoln)のこと。フリガナは、「アブラハム リンコン」と表記された。キリスト教思想家の松村介石(札幌農学校第13期生松村松年の実兄)による伝記は、1890年発行以来、版を重ねて人気を博した。この伝記は夜学校内でも回読され、1897年男子生徒の修養会「倫古龍会」の創設へと至った。	
I-15	『倫古龍会雑誌』(1913年7月)
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0026〔展示期：②〕
女子生徒の冊子『文の園』が継続発行する一方で、男子生徒も冊子『倫古龍会雑誌』を出していた。現存が確認できる『倫古龍会雑誌』は1911、1913年発行の2冊のみ。1913年の冊子表紙には、高等科1年の岩淵源蔵が巧みな水彩画で彩りをそえている。	

I-16	倫古龍会第326回例会（1913年7月13日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0026〔展示期：②〕
『倫古龍会雑誌』には、男子生徒の作文、教師の創作文のほか、巻末に「倫古龍会会報」として例会記録が綴られた。第326回の例会（7月13日開催）には38名もの出席者があり、教師には有島武郎・足助素一・野中時雄らの名前が見られる。	
I-17	『文の園』第86号（1913年6月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0201〔展示期：②〕
『文の園』は、1907年以降、記名制となった。発行元は、1910年以降、「羊会」から「董会」へと代わった。墨書きの冊子から、次第に、生徒作文への教師による朱筆添削、教師自身による創作文、表紙・中扉への教師・校外生等による彩色画、生徒による習字や図画、董会例会報告などが綴られるようになり、冊子内容が充実していった。	
I-18	尋常科5～6年生作文集『小羊』の創刊（1916年11月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0024〔展示期：③〕
尋常科5～6年生による「小羊会」は、1916年に毎週土曜日に集うようになり、同年11月には作文集『小羊』を創刊した。担当の教師は生徒の作文・作図に朱筆添削をして、講評を書き込んだ。その後、初等部では、『ボプラ』（1933年創刊・修身会誌）、『子雀』（1926年卒業生誌）などがガリ版印刷により作られた。	
I-19	『文の園』第127号（1917年5月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0217〔展示期：③〕
『文の園』の巻頭もしくは巻末には、回覧名簿が書き込まれた。	
I-20	尋常科6年中村すえ「私の家」（『文の園』第86号、1913年）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0201〔展示期：②〕
1912年以降、『文の園』では、「私の家」・「我が家」・「家庭」といった題目で、生徒が家庭環境を作文に記すようになった。作文からは、義務教育年限が尋常小学校6年までになったにもかかわらず、女子生徒が家庭の事情により、家事手伝・子守・看護婦見習などに就き、昼間に就学ができない状況にあったことがうかがえる。	
I-21	尋常科6年濱田公治「我が愛せし偉人 ナポレオン」（1916年11月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0024〔展示期：④〕
『小羊』創刊号は、「我が愛せし偉人」という題目で生徒の作文が編まれた。二宮尊徳・楠木正成などの日本人のほか、ワシントン・コロンブス・ナポレオン・リンカーンといった外国人を取り上げる生徒も少なくなかった。	
I-22	董会例会の報告（1912年3月3日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0196〔展示期：③・④〕
「董会」は、教師の木村徳蔵・瀧臣弼（札幌農学校第19期生）の主唱により、1900年創設された女子生徒の修養会。毎月1回日曜日の夜会合し、教師による訓話や生徒の修養談のほか、紙袋はりや雑巾縫いの手芸作業（労働）を行なってその対価として得た収入を遠友夜学校積立金にあてる活動をした。1912年3月3日開催の例会では、有島武郎の訓話があった。	

I-23	第157回董会例会（1916年8月6日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0216〔展示期：①〕
第157回董会例会に出席した野中時雄は、「美しきジョーの十四五章 働く意義」*を講話し、有島安子夫人の逝去を生徒に伝えている。 * 日高善一訳『美しきジョー 犬の自叙伝』内外出版協会・1912年発行 （原著：Margaret Marshall Saunders, Beautiful Dog, 1893.）	
I-24	尋常科6年近藤小志津「風乃夜」（『文の園』第127号、1917年5月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0217〔展示期：④〕
夜学校の授業は、秋・冬・春期は18:30～20:30、夏期は19:00～20:30に行われた。作文「風乃夜」では、女子生徒にとって夜間の通学が危険・恐怖と隣り合わせであることを伝えてくれる。近藤小志津のように作文中に挿絵を描き、日常生活の一風景を起承転結にそった作文にする女子生徒が、1910年代以降、多く見られるようになった。	
I-25	本科1年三浦シゲ「ママさんごと」（『文の園』第195号、1920年8月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0228〔展示期：③・④〕
I-26	本科1年三浦シゲ「黄菊のかげ」（『文の園』9月号、1920年9月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0229〔展示期：②〕
1910年代後半～1920年代には、雑誌等を参考にして竹久夢二風の女性図を描き、独創性の富んだ作文を生み出す女子生徒が現れるようになった。三浦シゲは、“大正浪漫”を感じさせる図と抜群の作文力・創作力をもった女子生徒。	
I-27	校歌と奨励歌
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0010〔展示期：②・③・④〕
「校歌」は、札幌農学校生の有島武郎が1898年に作詞した。「奨励歌」は、1913年12月28日開催の奨励会（生徒の学芸演習及び遊戯・余興発表会）において、夜学校代表となった有島武郎のもとで歌われ始めた。その後、両歌は夜学校生徒・教師に愛唱された。	
I-28	尋常科5～6年の出席簿（1918年9月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0036〔展示期：③・④〕
出席簿中の斜線は「欠席」を指す。1918年度の入学生徒は112名、退学生徒は133名。入退学生徒が多いと共に欠席生徒も多かった。生徒は昼間、家事手伝をしている者が最多を占め、奉公・子守・裁縫・給仕・職工・看護婦などに従事している者も多かった。退学・欠席の理由は「家庭の事情」が主たるものであった。	
I-29	履歴書「新渡戸万里子」
	沿革資料／半澤洵関係資料（前川2009）0061〔展示期：①〕
半澤洵（遠友夜学校代表）の筆による履歴書。「札幌に於て遠友夜学校設立の際、土地及家屋買入れの為、若干の金円を寄附し、其後匿名にて其維持に力を添へり」と、夜学校へのメアリー夫人の貢献を記している。新渡戸稲造は、メアリー夫人を「私が校長と云ふものの校主と云ふべきは私の家内」（『遠友』第9号・1930年10月発行、1面）とも称していた。	
I-30	『遠友夜学校一覧』（1921年頃）
	沿革資料／半澤洵関係資料（前川-遠友）0001〔展示期：①〕
小谷武治（札幌農学校第15期生）が遠友夜学校代表の頃に発行した学校一覧。遠友夜学校の歴史や現況を紹介している。	

I-31	創立以来の教師名簿（1921年頃）
	沿革資料／半澤洵関係資料（前川-遠友）0001〔展示期：③・④〕
『遠友夜学校一覧』（1921年頃発行）は、1894年創立以来の教師名簿を7ページにわたり掲載した。教師数は144名を数えた。北海道帝国大学の関係者（札幌農学校・東北帝国大学農科大学の卒業者、北海道帝国大学の在籍者）には赤丸印を、そのうち遠友夜学校の校長や代表を務めた人物には青丸印を付した。	
I-32	半澤洵「遠友夜学校を紹介す」（1923年）
	沿革資料／半澤洵関係資料（前川-遠友）0055〔展示期：①〕
半澤洵が遠友夜学校の歴史を談じた手稿。遠友夜学校は、1894年以来、札幌市内の貧しい家庭の子どもや学校に昼間通学できない晩学者のために、無月謝で初等教育を授けている学校で、札幌農学校関係者が夜学校の教師・代表を歴任と紹介している。	
Ⅱ．後期（1921-1944年）～中等学校の授業が中心となった時代～	
Ⅱ-1	生徒の職業（1926年10月25日現在）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0010〔展示期：②〕
初等部生徒には、職工・職人（機械工・印刷工・大工など）、店員（菓子屋、呉服屋、荒物屋など）が多く、家事手伝・子守も見受けられる。中等部生徒には、給仕（北海道庁、裁判所、帝室林野局、北海道帝国大学医学部）が多く、雇員・事務員（北海道庁、郵便局、通信局）、小学校教諭といった職種に就いている者もいた。	
Ⅱ-2	生徒の職業・通学距離・通学別調査（1927年6月現在）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0010〔展示期：③・④〕
1927年6月生徒現況調査によると、男女共に、職業は職工・職人、通学距離は約1.1km～1.6km、自宅からの通学が最多であった。	
Ⅱ-3	生徒の年齢調査（1927年6月現在）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0010〔展示期：③・④〕
1927年6月生徒現況調査によると、最年少生徒は初等部2・3学年の10歳男児、最高齢生徒は中等部4学年の27歳男性であった。初等部生徒は12～19歳、中等部生徒は15～20歳が中心であった。初等部では男子生徒77人／女子生徒31人、中等部では男子生徒80人／女子生徒27人、全体では男子生徒が73%を占めていた。学年は男子生徒が中等部1年・女子生徒が初等部6年、年齢は男子生徒が17歳・女子生徒が15歳の層が厚かった。	
Ⅱ-4	初等部・中等部の学課目（1927年度）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0010〔展示期：③・④〕
1926年、中等部は3年制から4年制へと改編された。科目が多岐にわたり、授業数が増えたことから、教師の確保は学校運営にとって緊要な課題となった。	
Ⅱ-5～Ⅱ-7	中等部受験手続（1927年度）、中等部生徒募集広告（1927年度）、生徒募集のちらし（1929年）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0010〔展示期：②・③・④〕
遠友夜学校では授業料はなかったが、生徒の金銭的な負担はゼロではなかった。1927年度の中等部受験料は20銭。その後、1932年度自治会日誌によると、中等部への入学には、受験料30銭、入学料1円、教科書は古本でも2円50銭、倫古龍会会費40銭、それにノート等をそろえると5円は必要であったという。「吾々の薄給の者には実にたいした多金である、これでは失業しているものや貧しい者には残念乍ら入学で出来なくなるのではあるまいか」と、自治会幹事(中等部生徒)は苦言を呈した。	

II-8	中等部第2学年の「通知箋」(1928年度)
	沿革資料／遠友資料(農) 041〔展示期：②〕
中村雄二(1911-1991年)は、北海道農事試験場本場(札幌郡琴似村)に勤務しながら夜学校中等部に通学し、優秀な成績をおさめた。学会会の英語劇「ウィリアム・テル」では、主役を演じて活躍した。	
II-9	中等部生徒の出席簿(1931年)
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0034〔展示期：③・④〕
出席簿には、1931年に入学した中等部生徒の在学期間、退学理由等が記されている。入学後1年未満で退学した生徒が非常に多く、在学1ヶ月にも満たない者も少なくない。退学理由に「応召」も見られる。夜学校が掲げる高い理想とは裏腹に、生徒にとっても関係者にとっても厳しい現実を示していると言える。	
II-10	初等部・中等部の教師一覧(1930年9月)
	沿革資料／半澤洵関係資料(前川-遠友) 0133〔展示期：③〕
初等部・中等部共に主な科目は、北海道帝国大学(以下、「北大」と略す)の男子学生が受け持った。一方、中等部の女子生徒には北大の男子学生では担当できない、「家事」科目(作法・裁縫など)を教授する必要が生じた。教師一覧の「宇賀神花子」は、当時、北大理学の副手。東京女子高等師範学校家事科を1926年に卒業し、「家事」の教諭免許を所有していた。	
II-11	教師名簿(1934年9月24日現在)
	沿革資料／半澤洵関係資料(前川-遠友) 0191〔展示期：②〕
北大の学生(農学部・理学部・医学部・工学部)・生徒(予科・実科など)が、夜学校教師を主に務めた。教師の勤務体制は、中等部の上級学年で科目の専門性が必要とされたことから、教室分担制から科目担当制へと変化した。	
II-12～II-13	運動会への寄附者名簿(1929年)、運動会のご案内(1931年)
	沿革資料／半澤洵関係資料(前川-遠友) 0006・0144〔展示期：③〕
3月は卒業式、4月は宣誓式(入学式)、6月は運動会・開校記念日、7月は銭函海水浴、9月は月見会、春・秋季は月1回日曜日の遠足・登山が、夜学校の年中行事であった。	
II-14	遠友夜学校の校章(佐々木西二デザイン、1929年制定)
	沿革資料／図版より縫製・作成(渡辺由起子氏協力)〔展示期：③・④〕
II-15	扁額「With malice toward none, with charity for all」(1931年)
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0044〔展示期：③・④〕
新渡戸稲造校長が揮毫したリンカーンの言葉(第2期大統領就任演説、1865年3月4日)。	
II-16	入学の宣誓(1936年4月11日)
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0035〔展示期：③・④〕
1936年度の宣誓式では、中等部1年の土肥富治雄が、新入生総代として宣誓した。	
II-17	初等部の卒業証書(1938年3月12日)
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0043〔展示期：③・④〕
新渡戸メアリー校長時代の卒業証書(島貫正八：1938年卒業)。	

Ⅱ-18	自治会の記録（1933年11月4日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0031〔展示期：②〕
1924年1月、生徒による自治会が設立された。各学年から幹事が選出され、監事（教師）のもとで月1～2回幹事会を開催し、学校内で発生する諸問題（ピンポン騒音、土足、居残り、喫煙、掃除当番のさぼり、器物の損壊など）の解決策を話し合った。また、新入生募集の作業（立て看板・ポスターの作製・分担指示）にもあたり、学校事務を補助した。	
Ⅱ-19	図書部の日誌（1936年10月14日、10月16日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0033〔展示期：②〕
高井泉教師が児童書数十冊を寄贈したことを契機として、1928年2月、中等部第3回卒業生が図書部を設置した。図書部の生徒は、図書の貸出・整理など、図書室業務を担った。蔵書は児童書と文学を主としていたが、生徒の高年齢化により、中等部生徒による弁論・文学関係図書・雑誌の利用が大半を占めた。	
Ⅱ-20	倫古龍会弁論部の記録（1932年5月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0032〔展示期：④〕
倫古龍会は文芸部・庶務部・弁論部・会計部・図書部に分かれ、中等部生徒を中心に、熱心な課外活動を行なった。文芸部は雑誌『遠友魂』を発行し、弁論部は練習会・座談会・大会（毎学期）の開催、校外の弁論大会への生徒派遣など、活発な活動をしていた。1932年5月9日開催の「札幌中等夜学校創立十周年記念弁論大会」では、札幌中等夜学校・北海中学校・中等夜学有鄰館からの生徒と弁論を競った。	
Ⅱ-21	弁論大会での中等部女子生徒の活躍（1932年4月29日、於：運動場）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0032〔展示期：③〕
1932年4月29日、倫古龍会弁論部主催の新入生歓迎春季弁論大会では、中等部4年其田フミが「婦人運動に就いて」と題して論じ、優秀弁士として3等賞に輝いた。	
Ⅱ-22	倫古龍会弁論部の表彰状（1935年10月5日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0103-03〔展示期：③・④〕
Ⅱ-23	倫古龍会弁論部の優勝カップ（1931年9月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0037〔展示期：③・④〕
Ⅱ-24	『遠友』新渡戸校長先生追悼号（1933年）
	沿革資料／応用菌学講座関係資料0010〔展示期：③・④〕
新渡戸稲造は、1933年10月16日、渡航先のカナダで逝去した。遠友夜学校では追悼の遙拝式などを行なった。中等部1年に在学する佐藤万寿子は、「私等は例へ一字でも多く学び社会に立って有益なる国民となり」と志を新たにしている。	
Ⅱ-25	学期報『遠友』第16号（1935年5月）
	沿革資料／半澤洵関係資料（前川-遠友）0016〔展示期：①〕
札幌農学校同級生であり、親友であった宮部金吾は、欧米留学中の新渡戸稲造が将来の夢を語る書簡（1885年11月13日付・ボルチモア発、1887年8月7日付・ボン発）に、遠友夜学校誕生の萌芽を読み解いている。	

Ⅱ-26	初等部の卒業証書（1941年3月8日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0110〔展示期：③・④〕
半澤洵校長時代の卒業証書（堤茂：1941年卒業）。初等部の卒業生数は、1926年度の39名をピークに、その後は減少傾向に転じた。1935年以降は20名未満になり、1941年度には9名（男9、女0）という一桁の数となった。	
Ⅱ-27	時間割（1939年1月）
	沿革資料／半澤洵関係資料（前川-遠友）0003〔展示期：③・④〕
Ⅱ-28	戦時体制下の遠友夜学校を論じた学校報『遠友』第29号（1940年12月下旬）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0163〔展示期：③〕
遠友夜学校の運営に中心的に関わっていた高倉新一郎（北大助教授）が、戦時体制下における夜学校のあり方を論じている。夜学校の弱点として「教師が未だ人格的に未完成であると言はねばならない学生であると言ふ事」、「卒業によって頻繁に代る事」と指摘している。戦時体制下、夜学校は、従来とは異なる困難な課題を新たに抱えることとなった。	
Ⅱ-29	第47回開校記念日における半澤洵校長の式辞（1940年6月18日）
	沿革資料／半澤洵関係資料（前川-遠友）0243〔展示期：③・④〕
新渡戸夫妻の逝去の後、第3代校長に就任した半澤洵は、正規の中学校と認可される夜間中学や、青年学校などが設立される状況の下、遠友夜学校も改変が必要であると述べている。また、夜学に通学することの困難さに理解を示しつつも、途中で挫折してしまう生徒が多いことを憂え、「初志ノ貫徹」を強く説いている。	
Ⅱ-30	戦時中の郵便葉書（1943年5～6月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0167〔展示期：③〕
開校50周年記念式案内とその返信・返送葉書。	
Ⅱ-31	1943年度の遠友夜学校行事報告（1944年4月）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0060〔展示期：③〕
Ⅱ-32	閉校を決定した「役員会決議録」（1944年4月22日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0056〔展示期：③〕
戦時体制のため、国から建物転用を求められたことを契機として、役員会は「廃校」を決定した。「貧児並ニ晩学者ノ教育事業ハ殆ンド達成セラレタ」と記しているが、廃校後に新渡戸の意志を継続するため北海道庁立図書館内に「新渡戸文庫」創設を計画するなど、関係者の苦渋の決断が滲む内容である。	

6. 写真目録

図 1	ジョンズ・ホプキンス大学留学中の新渡戸稲造（1885年、於：ボルチモア）
	沿革資料／北大人物B-21〔展示期：③・④〕
図 2	新渡戸稲造・メアリー夫妻（1891年頃、於：東京）
	沿革資料／高岡熊雄旧蔵写真〔展示期：③・④〕
図 3	札幌農学校教授宮部金吾（1894年 1 月 2 日、於：札幌）
	植物園所蔵資料／宮部金吾旧蔵写真0471_11〔展示期：③・④〕
図 4	札幌農学校基督教青年会（1893年 1 月29日）
	植物園所蔵資料／宮部金吾旧蔵写真0479_03〔展示期：③〕
青年会員の大島金太郎（札幌農学校第11期生）、大脇正醇（第14期生）らが、「豊平日曜学校」の頃より教師として夜学校に従事した。	
図 5	札幌基督教青年会（1896～1901年頃）
	植物園所蔵資料／宮部金吾旧蔵写真0479_04〔展示期：③〕
札幌基督教青年会（1881年10月創立）の会員も主に札幌農学校生が占め、遠友夜学校の教師を務める者も多かった。写真には、森本厚吉・木村徳蔵・有島武郎（札幌農学校第19期生）や、青年会長の中江汪・とめ夫妻らが写っている。	
図 6	大島金太郎を囲む札幌農学校予科生たち（1898年）
	沿革資料／星野勇三旧蔵写真〔展示期：①・③・④〕
予科生はのちの札幌農学校第19期生。第19期生からは有島武郎、半澤洵、蠣崎知二郎、瀧臣弼、木村徳蔵、森本厚吉、岩波六郎、井口為二郎、井街頭、畑治作が夜学校教師を務めた。	
図 7	遠友夜学校第 6 回卒業記念（1904年12月、夜学校前にて）
	沿革資料／川嶋一郎関係資料0038-60〔展示期：①・②・③〕
夜学校教師を務めた札幌農学校の学生たち（松の木周辺）と、農学校の教官（宮部金吾教授、半澤洵助教授）が夜学校生徒と共に写っている。	
図 8	大島金太郎を囲む生徒と教師たち（1906～1907年頃）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0117〔展示期：①〕
大島金太郎を囲んで、半澤洵や柳川秀興（東北帝国大学農科大学1909年卒業）のほか、札幌農学校基督教青年会の学生たちの姿もみられる。	
図 9	倫古龍会の男子生徒と教師たち（1906年 7 月 8 日）
	沿革資料／川嶋一郎関係資料0038-31〔展示期：②・③・④〕
図10	董会的女子生徒と教師たち（1906年 7 月 8 日）
	沿革資料／川嶋一郎関係資料0038-32〔展示期：②・③・④〕
教師を務めた札幌農学校第23期生（川嶋一郎、末光績、竹田茂）の卒業を祝して。	
図11	遠友夜学校の男子生徒と教師たち（1905年 6 月15日）
	沿革資料／川嶋一郎関係資料0038-06〔展示期：②〕
夜学校教師を務めた札幌農学校生の北澤小八郎、河内完治、田中享蔵の送別に際して。	

図12	新渡戸夫妻を囲む遠友夜学校生徒と教師たち（1909年6月8日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0271〔展示期：③・④〕
札幌農学校教授を務めながら、遠友夜学校長・私立北鳴学校教頭・北海道庁技師を兼務し、多忙を極めた新渡戸稲造は健康を害して1897年10月療養のため離札した。その後、新渡戸が来校したのは1909年6月、1931年5月の2回。写真には宮部金吾、大島金太郎、有島武郎、木村徳蔵、蠣崎知二郎、足助素一、鈴木限三、末光信三などの姿が見られる。	
図13	有島武郎先生の送別（1915年3月28日）
	沿革資料／山口茂雄関係資料0008〔展示期：④〕
有島武郎の大学休職・離札に際して。和装の有島武郎、洋装の蠣崎知二郎のほか、夜学校教師を務めていた北大生（野中時雄、山口茂雄、福士貞吉ら）の学生服姿も見られる。	
図14	初等部の授業風景（1930年頃）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0054〔展示期：②・③・④〕
1921年改組の「初等部」では尋常小学校（6年制）に準じて国定教科書による授業が行われた。生徒数が少なかった低学年（1～3学年）では、生徒を1学級（一つの教室）にまとめた複式教授法がとられた。	
図15～図16	初等部尋常科1～3年生、高等科1年生と教師たち（1923年）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0104〔展示期：②・④〕
北海道帝国大学附属水産専門部に聴講生として在籍していたインド人留学生のアラムダ・ナラヤナンナイヤも、夜学校初等部で教師を務めていた（高等科写真の前列右端）。	
図17	銭函海水浴（1920年代）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0038〔展示期：②・③・④〕
図18	北大植物園の見学（1920年代）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0038〔展示期：②・③・④〕
図19～図20	運動会の運算競走、競技風景（1920年代）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0038〔展示期：③〕
図21～図22	高倉新一郎先生の送別（1928年3月23日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0103、後藤忠関係資料001-014〔展示期：③〕
図23	卒業式（1920年代）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0104〔展示期：②・③・④〕
図24～図27	初等部2～3年生、4年生、5年生、6年生と教師たち（1929年）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0038〔展示期：③・④〕
図28～図31	中等部1年生、2年生、3年生、4年生と教師たち（1929年）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0038〔展示期：②・③・④〕
中等部では、女子生徒に高等女学校の学科目に準じて、作法・裁縫などの「家事」科目を教授した。半澤洵代表理事の奔走により、「家事」の教諭免許をもつ宇賀神花子（東京女子高等師範学校家事科1926年卒業、当時は北大農学部在学中）、秋田北盟寮母の石橋常世（元秋田高等女学校教諭）などが賛同し、夜学校の教師を務めた。	

図32	中等部の授業風景（1932-36年頃）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0103〔展示期：②・③・④〕
当時の学校系統は、男女別の教育が行われていた。中等教育機関は、男子は中学校、女子は高等女学校などにわかれていた。しかし、遠友夜学校では男女共学の授業が行なわれた。	
図33	校旗入魂式直後の中等部生徒（1931年3月11日、三吉神社にて）
	沿革資料／後藤忠関係資料001-004〔展示期：④〕
図34	クラス対抗野球戦（1930年5月1日、真駒内への遠足にて）
	沿革資料／後藤忠関係資料001-009〔展示期：④〕
図35	中等部生徒のピクニック（1930年4月27日、小別沢峠にて）
	沿革資料／後藤忠関係資料001-018〔展示期：④〕
図36	中等部生徒の空沼岳登山（1929年9月22日）
	沿革資料／後藤忠関係資料001-015〔展示期：④〕
図37	銭函海水浴（1930年7月27日）
	沿革資料／後藤忠関係資料001-025〔展示期：④〕
図38	倫古龍会第615回・新入生歓迎大会（1930年4月18日）
	沿革資料／後藤忠関係資料001-017〔展示期：④〕
図39	倫古龍会第618回秋季大会（1931年9月15日）
	沿革資料／後藤忠関係資料001-027〔展示期：④〕
図40	中等部生徒の寸劇「金と銀の斧」（1930年2月12日）
	沿革資料／後藤忠関係資料001-016-03〔展示期：④〕
図41	谷口信一先生担任クラス（1934年）
	沿革資料／遠友資料（農）016〔展示期：④〕
図42～図47	中等部生徒の演劇（1930年代、学芸会にて）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0103・0160、後藤忠関係資料001-029、遠友資料（農）011・012〔展示期：②・③・④〕
夜学校の年中行事のひとつである「学芸会」では、生徒たちが演劇、朗読、演説、唱歌などを披露した。中等部生徒による演劇では、「海彦山彦」、「検察官」、英語劇「ウィリアム・テル」（1931年9月15日）などの写真が残っている。	
図48	新渡戸稲造校長の来校記念講演（1931年5月18日）
	沿革資料／後藤忠関係資料001-036〔展示期：④〕
北大では「国際経済と人口問題」を講演した新渡戸は、夜学校では「学問より実行」を演題として講演した。夜学校創設の経緯や、校名が『論語』の一節「有朋自遠方來 不亦楽乎」（朋有り遠方より來たる、亦樂しからずや）に由来することなどを述べて、リンカーンのエピソードを交え、教育や学問の目的は「物を覚えること」ではなく、「立派な人になること」と説いた。	
図49	新渡戸稲造校長の来校を祝して（1931年5月18日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0116〔展示期：①・②・③・④〕
1931年来札した新渡戸は、5月18日に遠友夜学校で、20日には北大で記念講演を行った。写真には、遠友夜学校の運営に尽力してきた人びと（三嶋常磐、宮部金吾、半澤洵、平塚直治、森本厚吉、石塚喜明、高倉新一郎等）の姿が見られる。	

図50	新渡戸稲造校長遙拝式（1933年11月18日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0118〔展示期：③・④〕
図51	有島武郎先生の追悼式（1935年）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0039〔展示期：④〕
東北帝国大学農科大学在学中に有島に師事した鈴木限三（北大予科講師）が講演した。	
図52～図55	倫古龍会弁論部の大会（1930年代）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0103・0160〔展示期：②・③・④〕
1935、1936、1938年に開催された弁論大会。倫古龍会弁論部の生徒・教師たちの後ろに掲げられた垂れ幕には、勇ましい演題が並び、戦争の影響があらわれている。	
図56	新渡戸メアリー校長遙拝式（1938年9月26日）
	沿革資料／遠友夜学校関係資料0104〔展示期：③〕
図57	学芸会における中等部1年1組の出し物「戦場の月」（1938年）
	沿革資料／遠友資料（農）025（宍戸昌夫旧蔵）〔展示期：③〕
図58	卒業記念（1939年3月）
	沿革資料／遠友資料（農）009（宍戸昌夫旧蔵）〔展示期：②・③・④〕
参列している生徒に、幼い児童の姿は見当たらない。1941年卒業式では、夜学校初等部卒業生は、全員、札幌市内の尋常小学校を卒業している者であった。半澤洵校長は、1942年卒業式において、「札幌遠友夜学校の使命が略達せられた感があり」と式辞で述べた。	

(注) 資料中、現代の人権意識に照らして不適切と思われる語句や表現については、当時の時代背景と資料そのものを把握するため、原資料のまま、資料レプリカ・写真パネルを作成した。

7. 資料図録

thought are invariably associated with
 efforts. It is, indeed, my earnest
 desire and sincere hope that I may
 one day be able to do something for my
 God and for my country in Japan.
 More than this, I wish to see
 still teaching there. I thought, though
 I found a school for the benefit
 of the people. My idea of a Japanese
 Academy is that it should have
 three kinds of pupils: (1) older full
 grown men, to whom lectures should
 be given in Japanese on History, Geo-
 graphy, Agriculture, Natural Science
 (2) boys and youths who wish to pre-
 pare themselves for College or University
 and who cannot regularly attend
 the day school (3) night school for the
 neglected children of poor parents, labor-
 ers, etc. I hope to do this, who should
 neglect the rudiments of language &
 possibly little English or arithmetic
 (Practical arithmetic, etc.) If
 to these classes I added a night school

account of my poor religious experiences (for I was
 always in doubt) I failed to keep him the closest
 but I hope you would send him in that way.
 My best regards to Ashima & Ayako.
 I wrote to them but no answer. I sent books
 to T. B. but no answer. At the present time
 I am not let them do so they feel best.
 Mrs. Harter is at present very ill. She
 said she would not survive the next spring. May
 for her.
 With good love, I am, Yours truly,
 Wm. B. Eddy

I-01 宮部金吾宛て太田稲造書簡(1885年11月13日) 1枚目と7枚目

31 Dictated College Park, Cal. (1)
 Nov. 24th 1878
 Dear Dr. Miyabe,
 As Mr. Nitobe has heard nothing about the money
 given by the Government upon his resignation,
 he supposes that for some reason pay-
 ment may have been delayed & he
 fears that if this is the case you may
 have been inconvenienced in our
 account. Ashima San wrote that he
 had received you 50. as Mr. Nitobe
 requested of you. You heard it was
 Iwano's idea that when the Government
 money came it should be deposited
 in the bank under your care; so that
 you might have a fund at command
 to meet our expenses in Japan.
 If it has not come I fear you are
 already quite inconvenienced as no doubt
 his life-insurance policy had also lapsed.

paid beside our smaller running expenses. (2)
 Will you kindly let us know just how our
 account with you stands, & we will try to
 straighten it up as soon as practicable.
 Iwano wants me to ask whether Kimura San
 is quite well this winter, & whether there is
 any prospect of his being able to teach
 at the Toyouke school. We decidedly
 wish him not to do anything that is likely
 to prove adverse to his health; and are
 very willing to continue our care of him
 until next summer. I do not mean
 that we shall be unwilling to do so
 long; only that we cannot promise
 beyond that time until our own position
 & circumstances are more fully assumed.
 Should he at any time return to the
 school, we shall of course pay him
 salary there & make up the difference
 between that & five Yen a month. It
 is our wish to raise Nitobe San's salary
 at the school to six Yen a month; &
 shall write him to this effect.
 I think you know that we had a very
 delightful time in Canada & were much
 benefitted by our stay there. The journey

I-02 宮部金吾宛て新渡戸メアリー書簡(1898年11月24日) 1枚目~2枚目

	Aug	Sept	Oct	Nov	Dec	Total
House Rent	4,200					4,200
Maids Salary	1,250	1,250	1,250	1,250		5,000
Taxes	1,976			3,282		5,258
Trfare to Washington		3,500	5,700	6,500	4,100	20,800
Wardrobe				6,615		6,615
Life Insurance				21,990		21,990
To Washington Agricultural Society	2,915					2,915
None			5,500			5,500
	2,562	4,510	7,455	37,137	7,250	65,914

第一號勅定書説明書

第一 官舎の儀は八月限り迄納仕り再來は農學校の
命より御指定より仕者管理有の事正以て預り
と相成格り矣

第二 下俣の俸給補助の件は大島氏出立前小半額御
補助あり趣取り其おつき毎月屯岡廿五錢づゝ支出
ハもし乗り支番昨年未達したる御支人の御書附
により毎月尾岡御補助下さる趣分明ハもし其おつ
き未だ未支出しある五円を八月より十二月に至る
五ヶ月分の御補助として勅定仕置矣

第三 木村氏の御補助の金額御支人の書附が格差
まては金額不詳かつ取敢へず毎月食料をけ支出
し乗り居矣

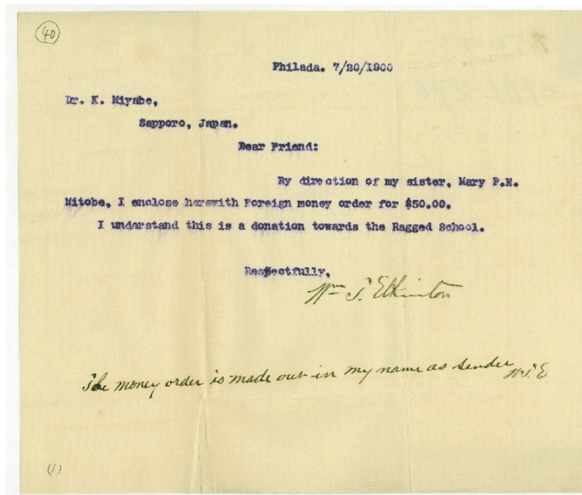
第四 警察より宅地を治へる道路除草をべき旨再三
催促小達已むかゝ人支を雇ひて南東北の三方を
除草せしめ矣

第五 昨年来御支人より預り五六円は毎月より内六
六ヶ月間より下俣俸給御補助せられしと其間左様御
承知下され度矣

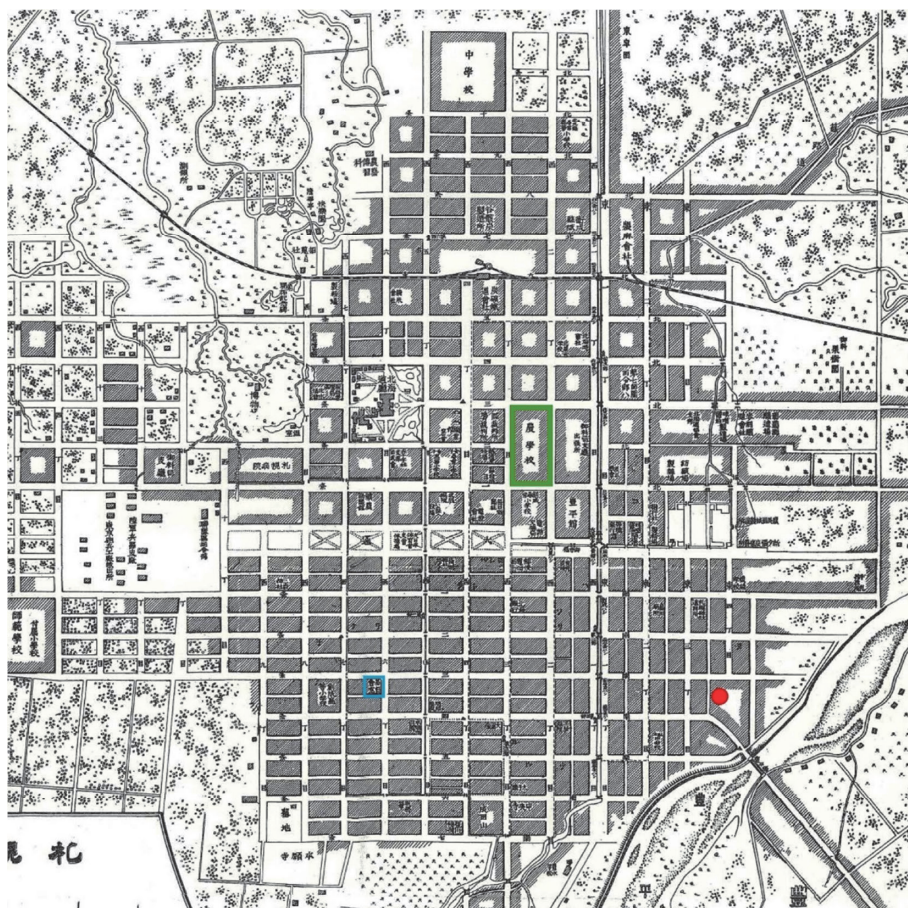
— 96 —



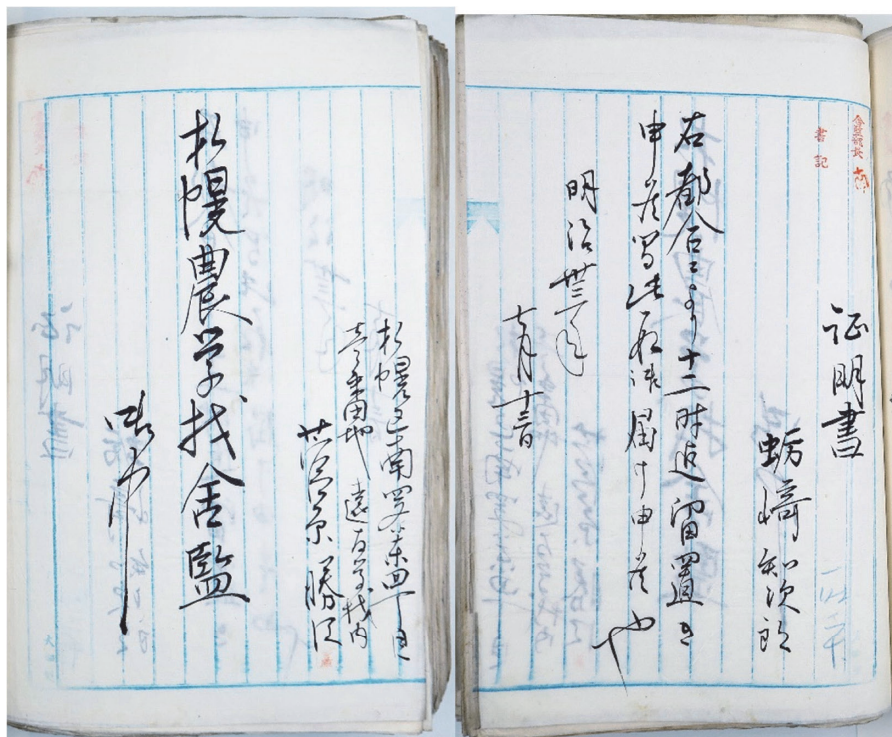
I-05 50ドル国際為替の控え(1900年)



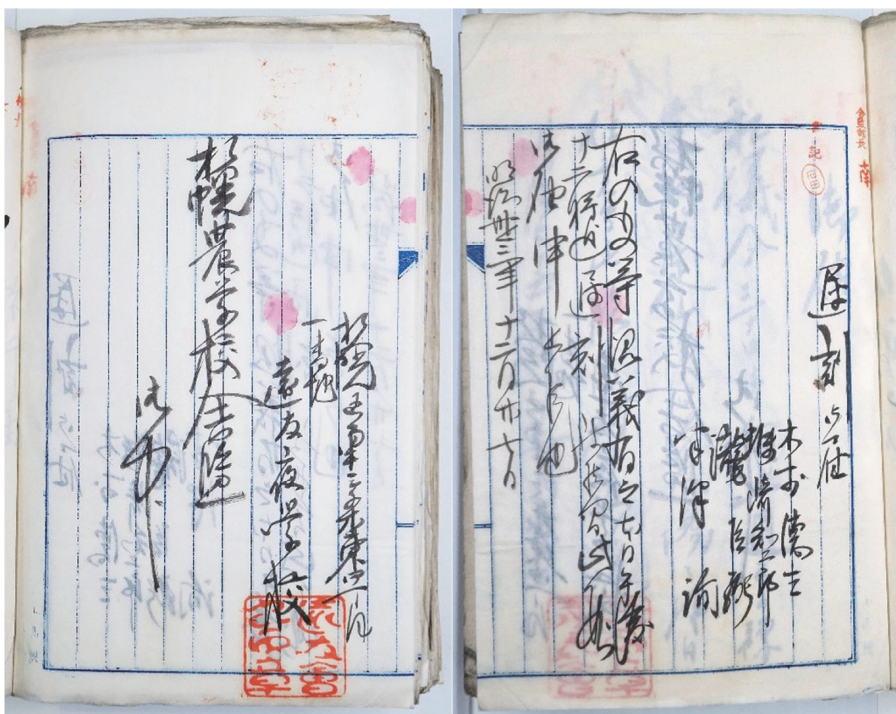
I-06 W.T.エルキントン書簡(1900年7月20日)



I-07 遠友夜学校草創期の札幌市街(1901年)



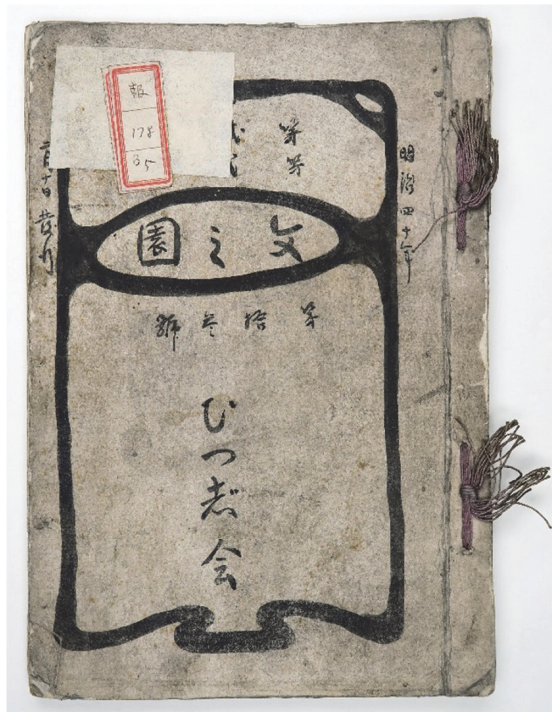
I-08 寄宿舍帰舎への遅刻証明書(1900年7月13日)



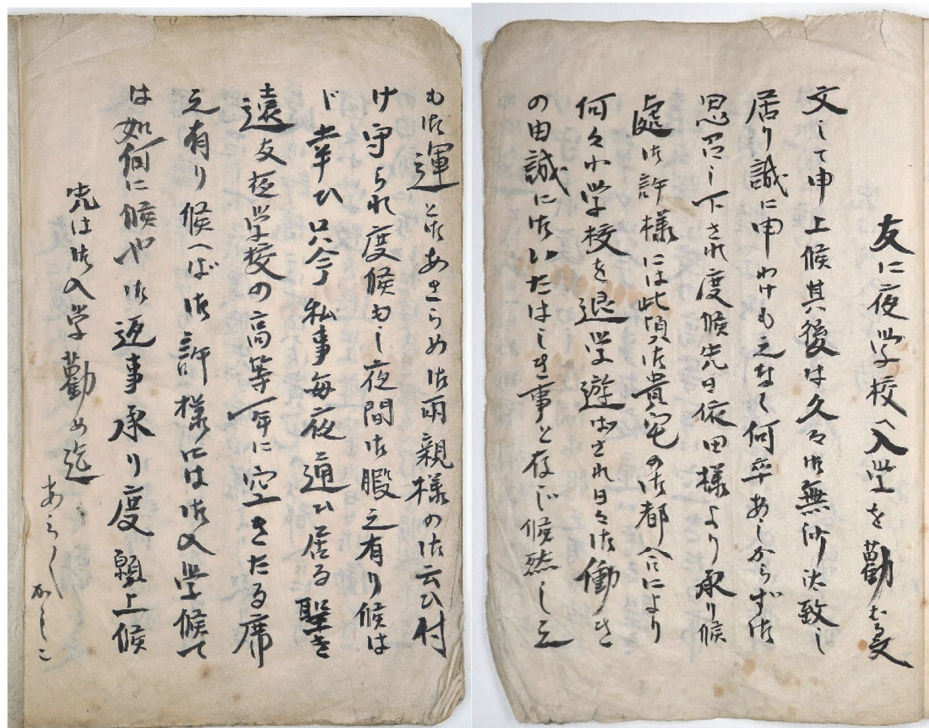
I-09 遅刻御届(1900年12月27日)



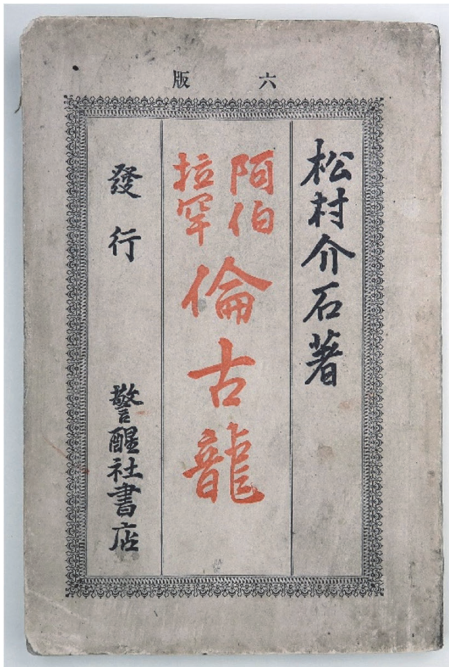
I-11 『文の園』第2号(1906年7月)



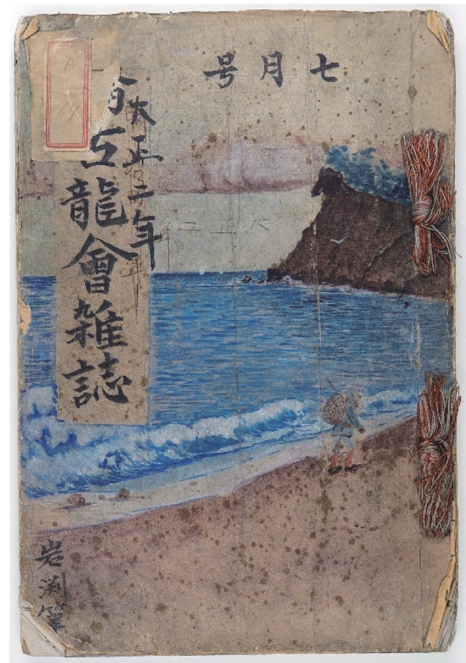
I-12 『文の園』第13号(1907年2月)



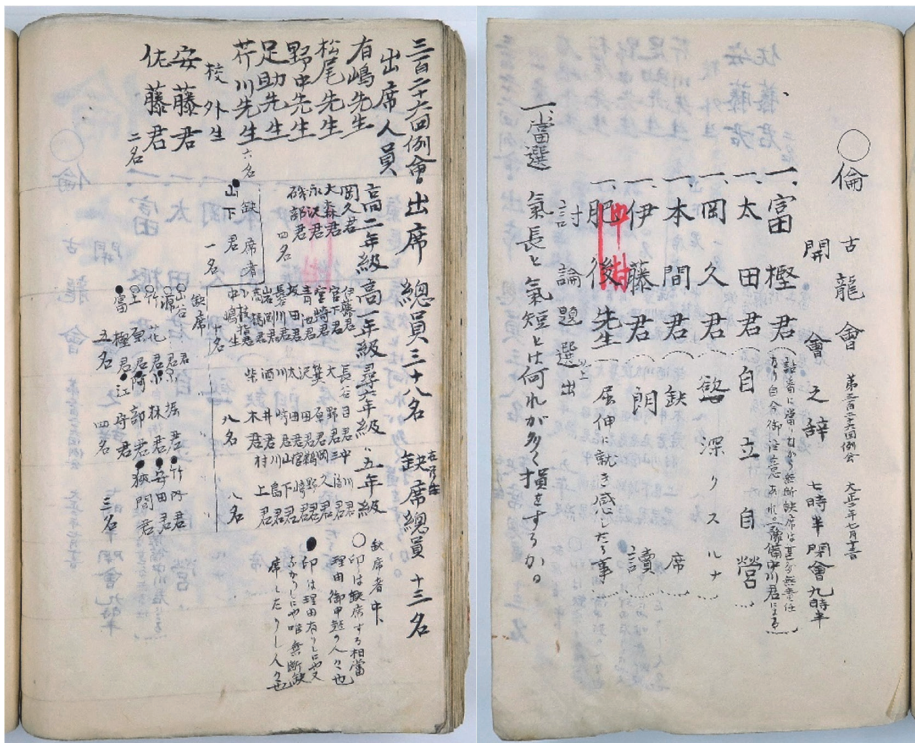
I-13 作文「友に夜学校へ入学を勧むる文」(『文の園』第2号、1906年7月)



I-14 松村介石『阿伯拉罕 倫古龍』(1900 年)



I-15 『倫古龍會雜誌』(1913 年 7 月)



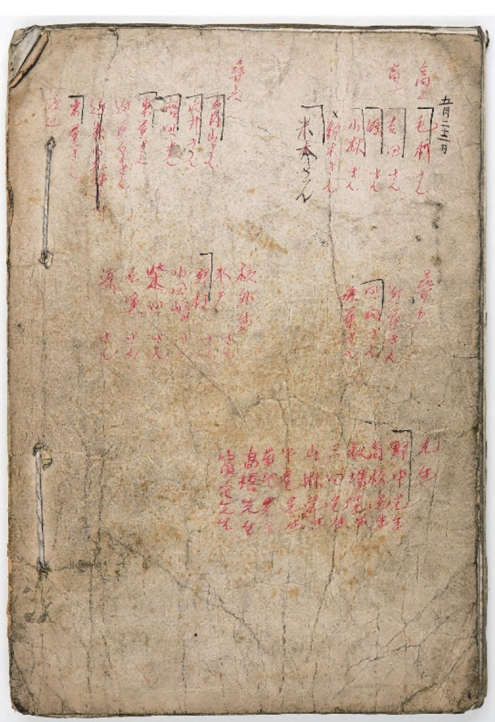
I-16 倫古龍會第 326 回例会(1913 年 7 月 13 日)



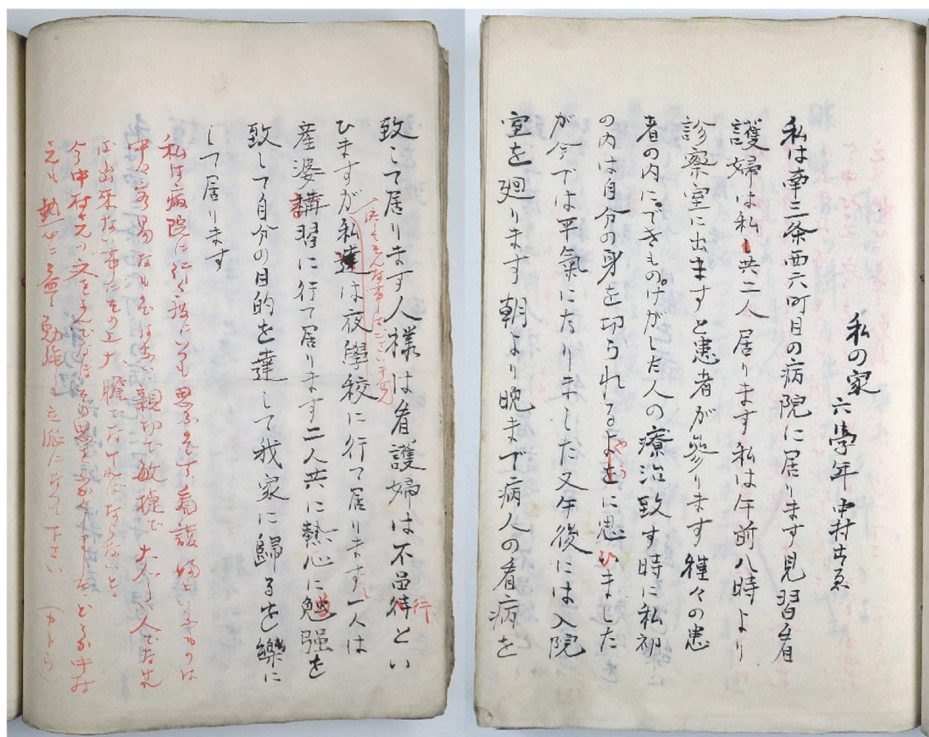
I-17 『文の園』第86号(1913年6月)



I-18 『小羊』(1916年11月)



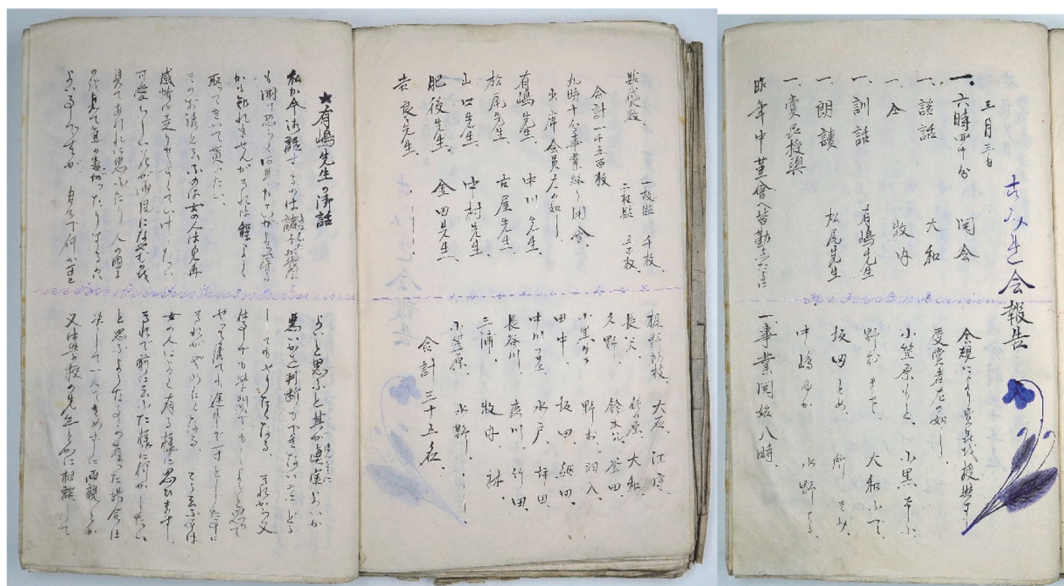
I-19 『文の園』第127号(1917年5月)



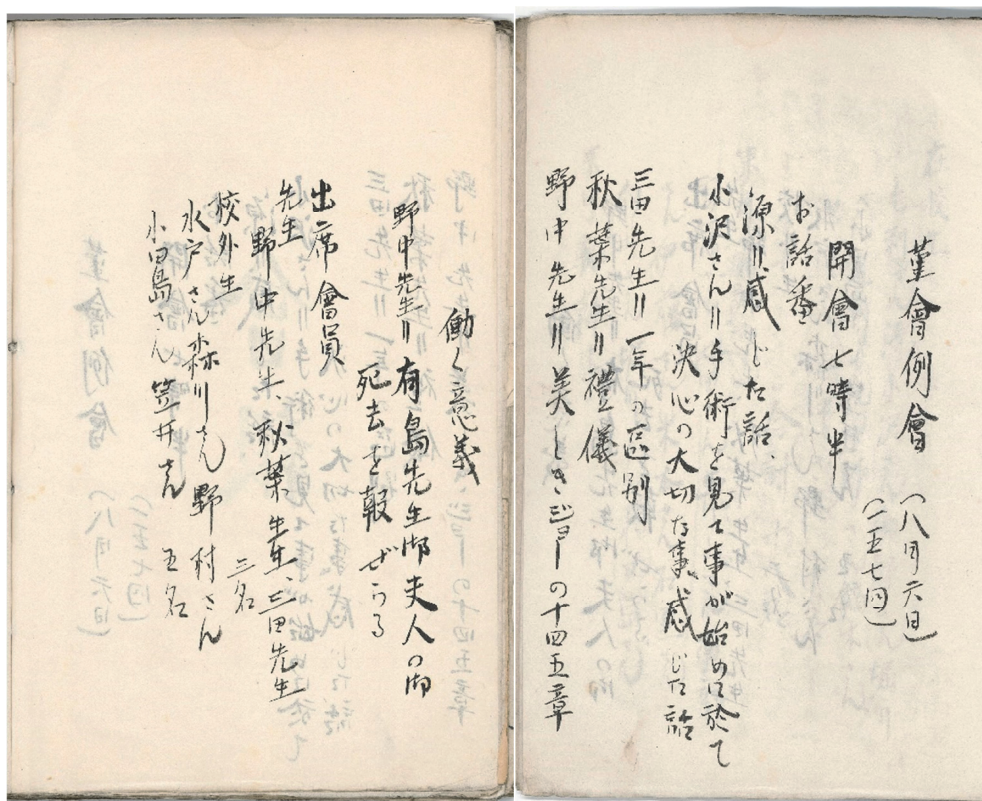
I-20 尋常科6年中村すえ「私の家」(『文の園』第86号、1913年)



I-21 尋常科6年濱田公治「我が愛せし偉人 ナポレオン」(1916年11月)



I-22 董会例会の報告(1912年3月3日)



I-23 第157回董会例会(1916年8月6日)

美しきやん ぞなに泣きけりいやよあめさんにふんふしてぬん
 くよふとくろくやつとぬんぬしてすあにのまたおふてもはら
 ちよふとやさんはあめさふれぬすわすたらいてか涙をすにめ
 ました
 ああ ああやんのうきさすなりやすこと
 いえもう泣きやめてこすりやすのよ
 小主人達につつんじしと見て私もこんな事があつたつと
 思わふほあんなだ

美しきやん
 小主人達

おはに



美しきやん
 小主人達

— 105 —



I-26 本科1年三浦シゲ「黄菊のかげ」(『文の園』9月号、1920年9月)

札幌遠友夜学校
校歌

一調 4/4 有馬武節作歌

(1) サワナス コノヨノ タノシサ ノ

1. 1. 5. 5. 6. 6. 5. 5. 1. 1. 1. 3. 2. 0.

タノシキ キハミハ ナニナル

5. 5. 3. 3. 1. 1. 2. 2. 3. 3. 3. 1. 2. 0.

ホウトコ ヲウウル トミヲエ デ

5. 5. 6. 6. 5. 5. 1. 1. 2. 2. 2. 3. 2. 0.

コカネヲ カザベン ソノトキ カ

5. 0. 1. 2. 0. 2. 3. 0. 3. 5. 0.

オーイ ナーイ ナーイ ナー

1. 1. 2. 2. 3. 3. 5. 5. 3. 3. 2. 2. 1. 0.

タノシキ キハミハ ナホアラ

(2) 正哉と共々に身を振る
愈々ば登てハ一途に
行くべき道を歩みし
真心の音に導かば
オー是れ 是れ 是れ
是れ 是れ 是れ 是れ
是れ 是れ 是れ 是れ
是れ 是れ 是れ 是れ

札幌遠友夜学校
奨励歌

二調 4/4

ヒョーゴト ヤ マ ズ ワーザラ ハゲミ

1-6 4 6 5. 5. 3. 1. 3. 5. 4. 2. 4. 3. 1. 2-5

ヨゴト ウ マズラ シ エキ ケ ヲ

5-3 1 3 2. 3. 2. 0. 3-1 3 5. 5. 6. 0.

ノーツミ ヲ キ ユクテ ナルヨ

1-6 4 6 5. 5. 3. 1. 3. 5. 1. 3. 2. 1-0

ターノシ アレラサ チ ハマデ リ

一 日毎に必ず業を断ち
夜毎に必ず教へ聞けば
望み多し行く手なるよ
樂し我専業は待てり

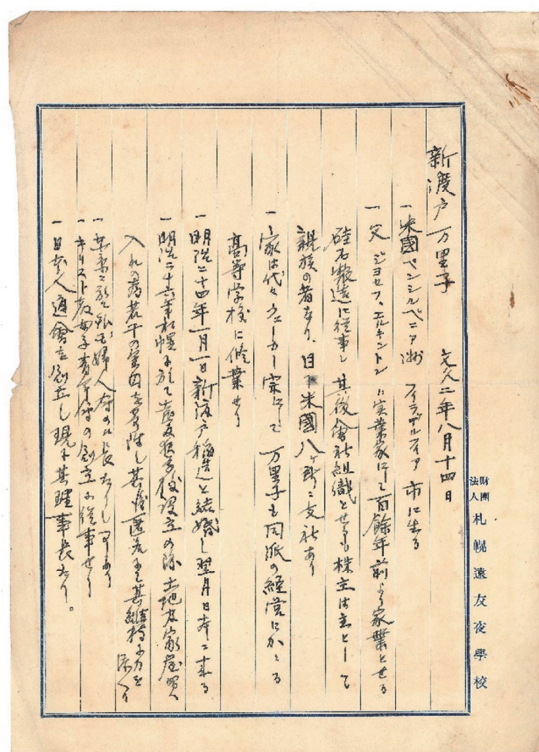
二 月に當に心恥ぢず
常に人の道をふまば
遠き友も心かて來なる
姪し我専一人ならず

三 綱 清き月はさやに照らす
つれ着るも心すまは
我専常に樂し姪し

I-27 校歌と奨励歌

The image shows two pages of a traditional Chinese ledger, likely a school record book. The right page is titled "小學校 科第 學年兒童出席簿" (Primary School Class Rank Student Attendance Book). It features a grid with columns for names, ages, and attendance. The left page is a continuation of the ledger, showing more names and attendance records. The pages are handwritten in Chinese characters and include red horizontal lines separating sections.

I-28 尋常科 5～6 年の出席簿(1918 年 9 月)



I-29 履歷書「新渡戸万里子」



I-30 『遠友夜学校一覽』(1921 年頃)

達文夜学校を結ぶ
 山本 半澤 湯説
 達文夜学校は札幌市の東部、豊平橋の西、下、高田川
 寺隈の南にあり、小さな土佐作りの建物で、明治二十
 年以來、毎晩午後六時半頃から札幌市内の貧困者、多
 の貧民児童、書面学校へ行くことの出来ぬ児童等の
 ために小学教習を授け、又一昨年以來、中華科を設け、中
 教習を授け、また、毎月新工場の學問を興へ、その
 結果的の学校である。
 電車では豊平橋行きの電車、一統並に下車し、少しく
 方へ戻り、達文夜学校は石造の建物で、江あけ北へ折れ、半
 所行、行けば左手にあり、東向きの建物がある。
 今より二十年前、札幌市の貧民屋より、は豊平橋の所
 へ移つたのである。その時、札幌夜学校教授で、今は東京
 帝国大学の教授に昇進し、國際聯盟の創設者として佛國に
 滞在せらるゝ、新達平橋造氏、この貧民會館を、貧民の
 子女、國民教育を授けようといふ金を出し、私財を投じて
 今の市會議長の松田市民部存の土地を買ひ、達文會を
 組織せし、維持費を供し、夜間教習を認め、その結果、
 今即ち達文夜学校の起りである。
 新達平校長は向うよく札幌を去らぬ、は達文夜学校に
 最多の児童者の監督の下、今更なる繼續し、益々充實し
 たりである。彼のは大島金次郎氏、山本新造氏、等の御
 二方、いゝ、なる、は、山本新造氏、校長、二方、

— 108 —

生徒職業

初等部二年 菓子店員、指物師、道具屋・通販、裁縫、家事手傳、
新工場・通販、家事手傳、

初等部三年 112 製造場・通販、下駄・輸入屋、家事手傳、裁縫(1人)

初等部四年 鍛冶屋、常務給仕、水産、鍛冶屋、

初等部五年 鍛冶屋、家事手傳、林・守、石版印刷業、家事手傳、荷賣、
家事手傳、機械模型工、奉公、家事手傳、電燈電話通信工、
家事手傳、鍛冶屋、煉乳屋・下駄屋、

初等部六年 牛乳販売、裁判所給仕、靴高、印刷工見習、下駄屋・新聞配達、
木工、古物製菓木工、皮革手傳、印刷業、呉服店員、店員、屠屋、
子守、給仕、子守、鍛冶屋、商業、商業、養殖船員・商業、金物店、
製版文運工、古物製菓木工、子守及上・家事手傳、印刷見習、給仕・大
給仕、カレンヂ見習、無職(1人)、

中等部一年 第1物産、地方裁判所給仕、帝室執務局給仕、廣大医科給仕、
電気技工見習、給仕、汽船職工、汽機曹、汽船屋、給仕、
第2物産、印刷見習、大工見習、造材医官、地方裁判所給仕、
郵便局電信課見習、風俗部給仕、菓子手傳、給仕、牛乳販売、

高等部二年 高級店、洋服屋、夏期合組職工、菓子手傳、
給仕(1人)、解版、菓子手傳、職工、店員、右・商業、菓子手傳、履屋、木工、552

高等部三年 鐵道品賣、職工、給仕(1人)、無職(1人)

高等部四年 差配給仕、帝室執務局給仕、履屋、職工・造履履屋、小學校教師、
區區手習員、札幌區信局員、

生徒平均年高表

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 初等部二年 | 13才 | 中等部一年 | 17才 |
| 初等部三年 | 15才 | 中等部二年 | 18.6才 |
| 初等部四年 | 16.1才 | 中等部三年 | 18.8才 |
| 初等部五年 | 19才 | 中等部四年 | 19.9才 |
| 初等部六年 | 15.9才 | | |

生徒退席時間

| | |
|-------|---|
| 初等部二年 | 9時10分 1人、10時10分 1人、12時10分 1人、11時40分 4人 |
| 三年 | 9時10分 1人、10時10分 1人、12時10分 1人 |
| 四年 | 6時10分 1人、10時10分 1人、13時10分 1人 |
| 五年 | 6時10分 1人、5時10分 1人、10時10分 4人、12時10分 2人、14時10分 1人 |
| 六年 | 6時10分 2人、2時10分 1人、8時10分 1人、9時10分 2人、10時10分 6人、
11時10分 7人、12時10分 4人、13時10分 3人、14時10分 1人 |

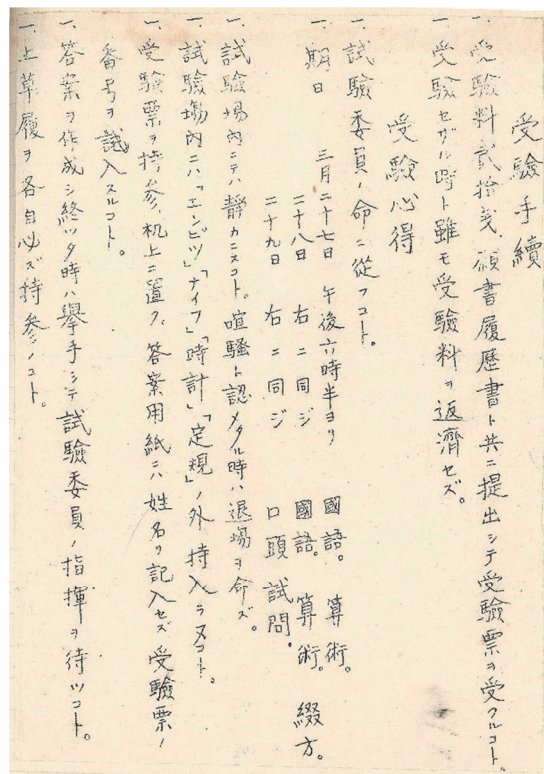
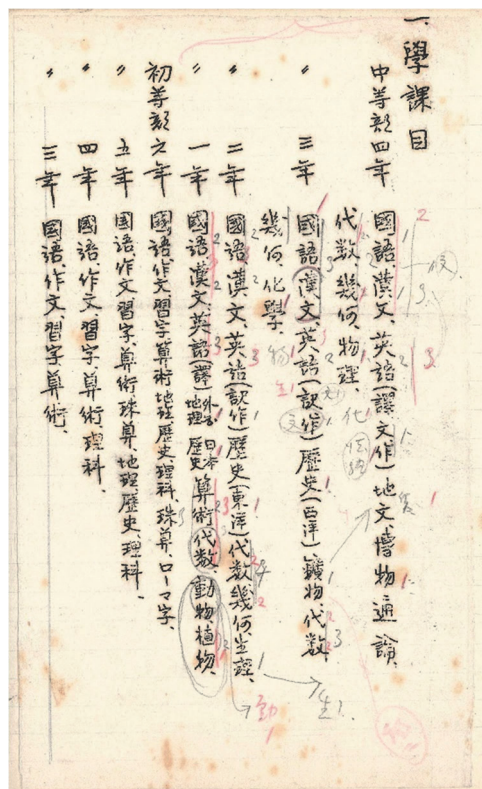
Ⅱ-1 生徒の職業(1926年10月25日現在)

[illegible]

Ⅱ-2 生徒の職業・通学距離・通学別調査 (1927 年 6 月現在)

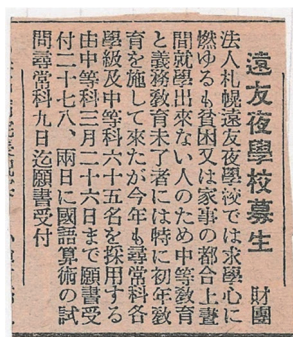
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 年 | 初 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 |
| 月 | 初 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 |
| 日 | 初 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 |
| 時 | 初 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 |
| 刻 | 初 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 |
| 分 | 初 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 |
| 秒 | 初 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 |
| 計 | 初 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四 | 十五 | 十六 | 十七 | 十八 | 十九 | 二十 | 二十一 | 二十二 | 二十三 | 二十四 | 二十五 | 二十六 | 二十七 | 二十八 | 二十九 | 三十 |

Ⅱ-3 生徒の年齢調査(1927 年 6 月現在)

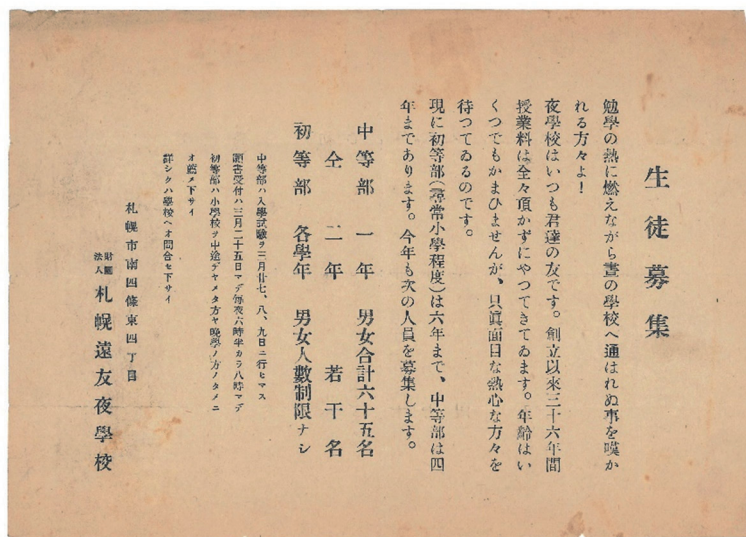


II-4 初等部・中等部の学課目(1927年度)

II-5 中等部受験手續(1927年度)



II-6 生徒募集広告
(1927年度)



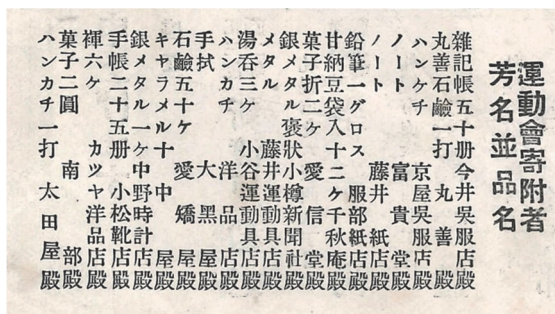
II-7 生徒募集のちらし(1929年)

| 姓名 | | 性別 | 年齡 | 籍貫 | 學歷 | 職業 | 備考 |
|----|---|----|----|----|----|----|----|
| 張 | 張 | 男 | 18 | 山東 | 高中 | 學生 | 1 |
| 李 | 李 | 女 | 17 | 河南 | 初中 | 家庭 | 2 |
| 王 | 王 | 男 | 16 | 湖北 | 小學 | 農民 | 3 |
| 趙 | 趙 | 女 | 15 | 浙江 | 小學 | 家庭 | 4 |
| 陳 | 陳 | 男 | 14 | 廣東 | 小學 | 農民 | 5 |
| 周 | 周 | 女 | 13 | 湖南 | 小學 | 家庭 | 6 |
| 吳 | 吳 | 男 | 12 | 四川 | 小學 | 農民 | 7 |
| 楊 | 楊 | 女 | 11 | 江西 | 小學 | 家庭 | 8 |
| 孫 | 孫 | 男 | 10 | 福建 | 小學 | 農民 | 9 |
| 朱 | 朱 | 女 | 9 | 安徽 | 小學 | 家庭 | 10 |
| 張 | 張 | 男 | 8 | 山西 | 小學 | 農民 | 11 |
| 李 | 李 | 女 | 7 | 山東 | 小學 | 家庭 | 12 |
| 王 | 王 | 男 | 6 | 河南 | 小學 | 農民 | 13 |
| 趙 | 趙 | 女 | 5 | 湖北 | 小學 | 家庭 | 14 |
| 陳 | 陳 | 男 | 4 | 浙江 | 小學 | 農民 | 15 |
| 周 | 周 | 女 | 3 | 廣東 | 小學 | 家庭 | 16 |
| 吳 | 吳 | 男 | 2 | 湖南 | 小學 | 農民 | 17 |
| 楊 | 楊 | 女 | 1 | 四川 | 小學 | 家庭 | 18 |
| 孫 | 孫 | 男 | 0 | 江西 | 小學 | 農民 | 19 |
| 朱 | 朱 | 女 | 0 | 福建 | 小學 | 家庭 | 20 |

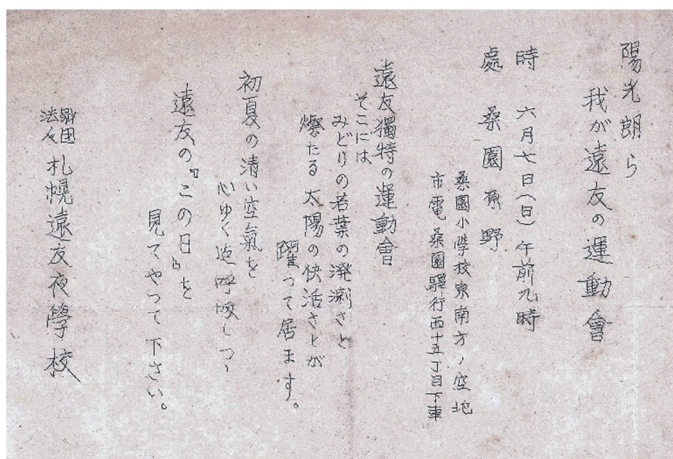
— 111 —

[illegible]

— 112 —



II-12 運動会への寄附者名簿(1929 年)



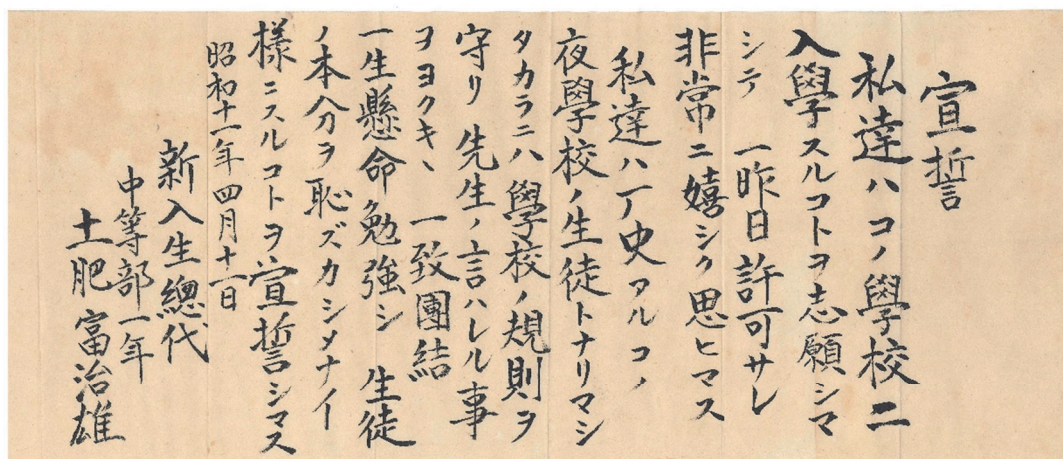
II-13 運動会のご案内(1931 年)



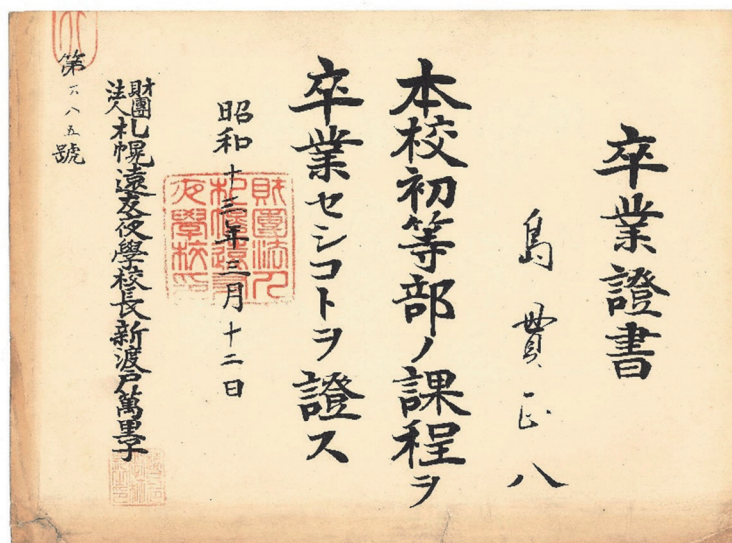
II-14 遠友夜学校の校章(佐々木西二デザイン、1929 年制定)



II-15 扁額「With malice toward none, with charity for all」(1931 年)



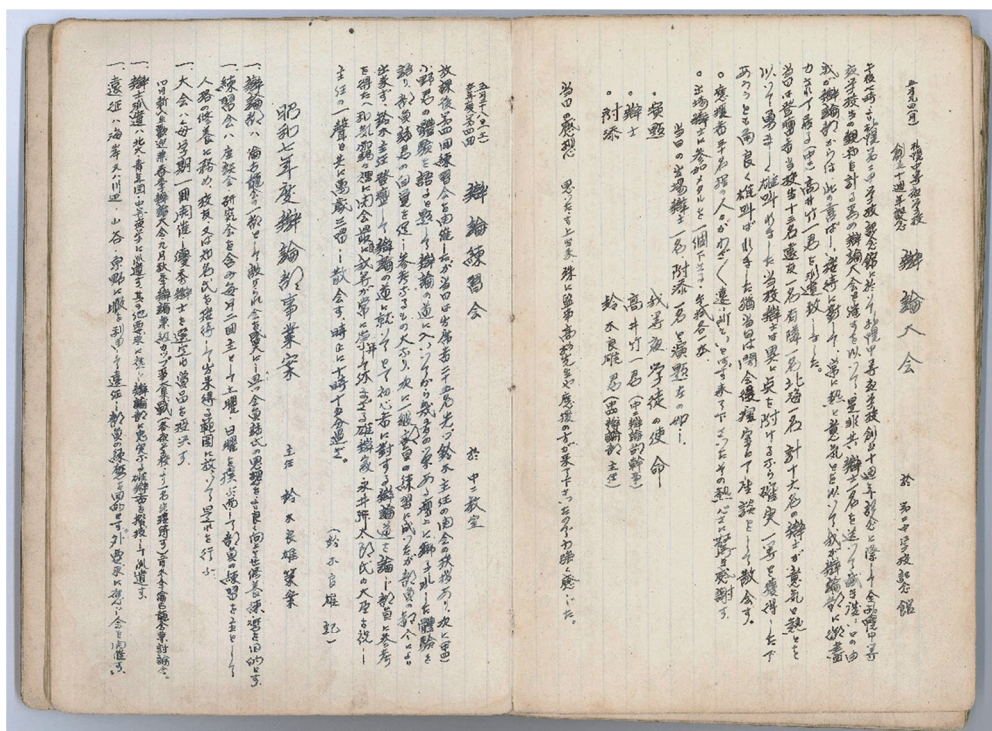
II-16 入学の宣誓(1936 年 4 月 11 日)



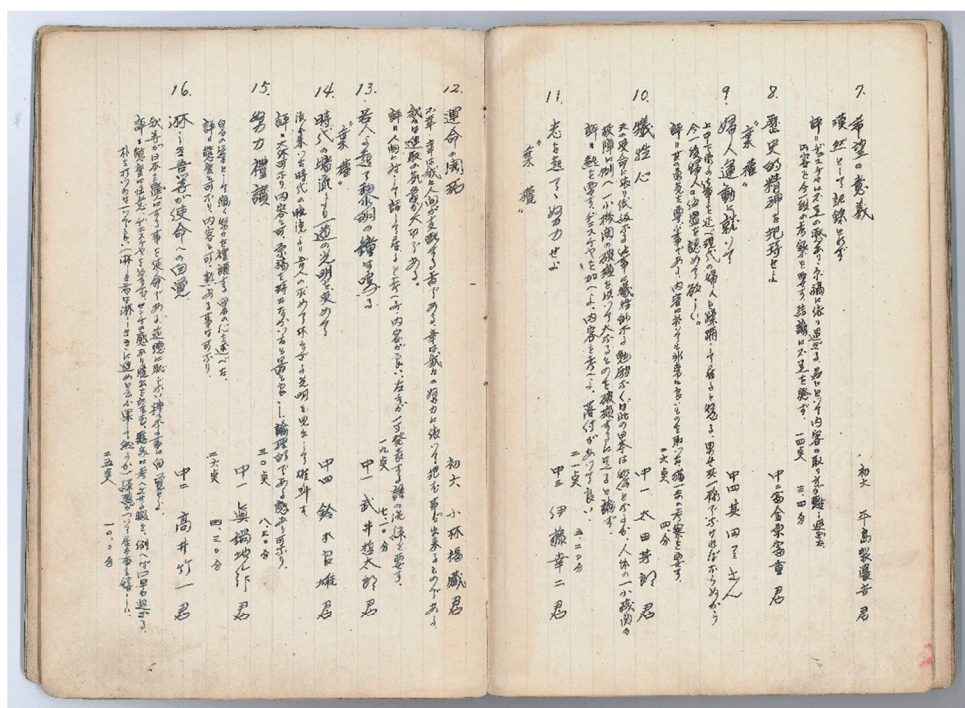
II-17 初等部の卒業証書(1938 年 3 月 12 日)

[illegible]

— 115 —



II-20 倫古龍会弁論部の記録(1932年 5月)



II-21 弁論大会での中等部女子生徒の活躍(1932年 4月 29日、於:運動場)



Ⅱ-22 倫古龍会弁論部の表彰状(1935 年 10 月 5 日)



Ⅱ-23 倫古龍会弁論部の優勝カップ(1931 年 9 月)



II-24 『遠友』新渡戸校長先生追悼号(1933年)

| | |
|--|--|
| 昭和十年五月發行 | |
| 札幌遠友夜學校學期報 | |
| 第十六號 | |
| <h1 style="text-align: center;">遠友</h1> | |
| <h2 style="text-align: center;">故新渡戸校長追悼の辭</h2> | |
| <p style="text-align: center;">——週年記念會に臨みて——</p> | |
| <p style="text-align: center;">宮部金吾</p> | |

II-25 学期報『遠友』第16号(1935年5月)

堤
茂

本校初等部ノ課程ヲ
卒業セシコトヲ證ス

昭和十六年三月八日

財團札晃遠友夜學校長從位勲等半澤洵
法人札中

第七二九號

| 月 | | | 火 | | | 水 | | |
|------|----|----|-----|----|----|----|----|----|
| 中 | 開 | 五藤 | 坂口太 | 今任 | | | | |
| (三) | 英語 | 漢文 | 代数 | 幾何 | 物理 | 化學 | 化學 | |
| 中 | 坂井 | | 石谷 | 坂井 | 摺垣 | | | |
| (二) | 國語 | 漢文 | 地理 | 歴史 | 歴史 | 作文 | 動物 | 動物 |
| 中 | 河合 | | 五藤 | 尖戸 | | | | |
| (一) | 代数 | 植物 | 地理 | 英作 | 英語 | 英語 | 英語 | |
| 中 | 田中 | | 深澤 | 近藤 | | | | |
| (一) | 算術 | 珠算 | 歴史 | 歴史 | 漢文 | 國語 | 國語 | 作文 |
| 初六 | 佐野 | 渡邊 | 高田 | 松山 | | | | |
| (佐野) | 算術 | 書方 | 理科 | 理科 | 自由 | 地理 | 國史 | 國史 |
| 初五 | 渡邊 | 樽垣 | 小西 | 小西 | | | | |
| (樽垣) | 書方 | 讀方 | 算術 | 算術 | 算術 | 算術 | 算術 | 算術 |
| 初三四 | 渡邊 | 杉浦 | 浅川 | 板倉 | | | | |
| (板倉) | 書方 | 理科 | 讀方 | 讀方 | 讀方 | 算術 | 算術 | 算術 |

昭和十四年一月

時間表

財團法人 札幌遠東夜學校

| 木 | | | 金 | | | 土 | | |
|------|----|----|-------|-------|----|----|----|----|
| 中 | 開 | | 中根 | 伊藤 | 松根 | | | |
| (三) | 國語 | 作文 | 生理 | 歴史 | 地理 | | | |
| 中 | 山崎 | | 山崎 | 谷口(信) | | | | |
| (二) | 代数 | 幾何 | 幾何 | 代数 | 英語 | 英語 | 英語 | |
| 中 | 田中 | | 近藤 | 深澤 | | | | |
| (一) | 算術 | 珠算 | 國語 | 作文 | 歴史 | 歴史 | 漢文 | |
| 中 | 五藤 | | 尖戸 | 河合 | | | | |
| (一) | 地理 | 英作 | 英語 | 代数 | 植物 | | | |
| 初六 | 渡邊 | 田村 | 佐野 | | | | | |
| (佐野) | 讀方 | 讀方 | 讀方 | 讀方 | 讀方 | 算術 | 算術 | 珠算 |
| 初五 | 渡邊 | 福本 | 谷口(信) | 樽西 | | | | |
| (樽西) | 書方 | 理科 | 地理 | 國史 | 讀方 | 讀方 | 讀方 | |
| 初三四 | 渡邊 | 杉浦 | 浅川 | 板倉 | | | | |
| (板倉) | 書方 | 理科 | 讀方 | 讀方 | 讀方 | 算術 | 算術 | 算術 |

— 119 —

遠友

財團法人 札幌遠友夜學校
校長 半澤 洵

新體制と

札幌遠友夜學校

高倉新一郎

[illegible][illegible]

教育として生じて、夜学校は「かくし」生活するに便したる廣い然し社會事業としての夜の教育は社會事業である。新體制下の伴ふ人生の事實の進行に伴ひて、人生する事柄の政治的問題の決定に於ける社會政策の一門を擔當する事に依つてその存在を許れるに依りたる點に於て、實例教育指導と直接接觸して、實例即ち教護員具體的任務を、即ち維護具體的目的を、持たぬ限り、唯民主化したるの秋業を以てと言ふ意味では恐らく社會事業だつてゐる。それは恐らく社會主義として認めるべき事項に従來行つてゐた夜學校から従來行つてゐた新職制轉換の如きは、職業勞働事業、擴大強固にして勞働の統制より十分強んだ不可能な面でも居るのである。それ程の指揮監督に行動し得るに過ない又それが所謂新體制中の一環である。社會事業とは米と異なり、著しく複雜なものであり、著しく複雑なものである。社會事業として日中中心に値かるべき方面の要素は大なる資金・手配の必要は、到底片腕片足仕事で間に合ふやうになくなくてはならぬ。社會

這の意味に於て、大學で習得し又人格陶冶を受けるものがあるから、大學の勉學と想ふに非ざる限り、最も理想的な奉仕形態である、新體制の精神は開校來のモットーであるが、但しそれはあくまで大衆教育と兩立し得るべきもの、夜学校の事業が大學の勉學を助け如きことが出来て、夜学校のこの意味で、夜学校のの仕事はその性質上受け得る。殊に上海道南區の學生は若くして出世を待つ技術者として出世出来ないでもない。故に出るを得ないならばその各々の事業を生ずると其の各々々の。そうたゞ場合、私は唯彼等のうち一人だけを、彼等のうち餘り科學啓蒙教育以外せる科系へ送らねないのである。

夜學校に關聯は、その外に成敗ある人々に未充に或る言はれざる一學生であると言ふ事であつて頻りに代するものでなく、それが事業として行く事は顯微である。新體

[illegible]

考へる時、新體制下に於
は此種の使命が如何に
現れるかを反省せねばな
い。

夜學校の任務は何と言
へば貧困兒童と晚學者の
育にある。兒童の救護を
年の保護が行ひた義務教
育普及され今日では、

形に立つて、家目的のみに改行して直に事業に現れて、重なる学校が今多くなり、組織に就かずしては、私個人は持ち難いといふが、私に現はれ、組織に就かずする限り答へる自信を持たない。

又、技術的な知識の深さを、技術的な知識の浅さを、あるが夜校の組から後者の方が容易である。但し、教員が限られ、直ちに實際に役立、教育と云ふより、は、科學的な教育と云ふに止るまでである。然しこれに、大學のエッセンスとしての夜校の獨特としての夜校の獨

重なる事業に現れて、重なる学校が今多くなり、組織に就かずしては、私個人は持ち難いといふが、私に現はれ、組織に就かずする限り答へる自信を持たない。

又、技術的な知識の深さを、技術的な知識の浅さを、あるが夜校の組から後者の方が容易である。但し、教員が限られ、直ちに實際に役立、教育と云ふより、は、科學的な教育と云ふに止るまでである。然しこれに、大學のエッセンスとしての夜校の獨特としての夜校の獨

に制の府に徹底するために、何れも先づ教師たる學
生は、指導が大事である。學
校の中心となるものがあら
なくてはならぬ。夜學校に
居るのは、夜學校に缺け
る以上、教師たる個
人から來てゐる、來た學生
の講話を通してのみ生徒
に接觸する如き無責任上
のつてはならぬ。責任は
重なるにつれて夜學校の運
営に、從來役員にのみと
して、夜校員にのみとす
るに、やういふ様な事なく、

[illegible]

昭和十五年六月十八日札幌遠友夜学校 於て
本日第四十七回開校記念日ヲ迎ヘ奉賓、教員並ニ生徒
諸君ト共ニテ祝ヒ且ツ社會事業家ノ元花札幌報恩学園
長小池九一先生ヨリ御講話ヲ伺ヘコノ一夜ヲ有金ニ過
出来ニコトハ誠ニ喜ビ堪ヘイハリデアリマス

本校ハ明治二十七年新渡戸先生ヨリ開設セラルヨリ今日
ニ至ル迄其間多少ノ変遷アリマシタ約五十年ノ久シキ間
學事ニ本校事業ヲ繼續致シテ多敷ノ卒業生ヲ社會ニ出シ何
レモ有用ノ材トシテ各方面ニ活躍セシメ居ラスコト國家社會ノ爲メニ
誠ニ慶賀ニ堪ヘセン 而シテ本校ノ存在ガ夙識者ノ認ムル所ト
ナリ 長ク皇室ヨリハ本校事業御獎勵ノ御恩ヨリ以テ多年
御下賜金拝受ノ光榮ニ溢シテ居リマス 聖恩宏大莫ク是ヲ恐懼
感激ニ堪ヘセン 私共ハ協力一致最善ヲ盡シテ聖旨ニ答ヒ
奉ランコトヲ期スル次第デアリマス

又官衙ヨリハ助成金又ハ補助金ヲ下附シテ又本校維持會員ハ
多平不變ノ同情ヲ寄セラルモトハ誠ニ感謝ニ堪ヘセン 私共ハ
銳意其ノ期待ニ資カマシ努力スル覚悟デアリマス

而シテ又一面ニ於テ本校ガ長期ニ亘ラズ不變ニ事業ヲ繼續シ
得テトハ之レ偏ニ教員各位ノ貴重ナル時間ヲ割愛シテノ献身
的努力ノ賜デラタラ今日ヨリ御盡シテ下サテ多敷ノ教員各位ニ
深甚ノ謝意ヲ表スル共ニ今ハ故人トナラセタ校長新渡戸先生
御夫妻代表者大島金吾君有島武郎氏並ニ伊藤肇
氏ヲ始メ多敷ノ教員諸氏並ニ佐藤芳樹南津和郎大竹敬助
氏其他ノ維持會員ノ御願福ヲ諸君ト共ニ謹シテ祈リタイ存シマス
叔子社會ノ状況ハ時々變化シ急ニ複雑化スルブレノカカ隔
トシテ改善ヲ要スベキモ亦從テワザヨリ異レモソコトハ當然ノコト
存シマス 本校モ亦時勢ノ變遷ニ伴ヒ改変ヲ要スルコトモ亦明
クノ處ト思ハレマス 新渡戸先生ガ本校ヲ創設セラレテ當時

日本報學報 94

北海道帝國大學

ニ於テハ初等教育ヲ受ケラレシ児童ガ多數ニアツタノダ若シ
夜學校ガ云々ワツタラバ此等ノ人々ハ普通通教育ヲ受ケルコト
出来ナクツタデアリマス 然ルニ其ノ後小學校教育ハ漸次行キ
渡ル様ニナリシタガ本校開設ニシテ八年ニシテ中等部増設
シ見今日マデ約二十年間ヲ經過シタデアリマスガ近年有金
裕夜間中學ノ設立ヲ見ルニ至リ昨今又青年學校ノ設
務制ガ實施セラレントスルニ至リシタガ本校モ亦之ニ應
ルル何等カノ改変ヲ要スベキ時期ニ到達シ居ルデアリマス
思ハルニデアリマスガ此點ニ關シテハ本校教員各位カ絶ヘズ
講究シテ居ラレ本校ハ常ニ一歩進ニテ社會ノ爲メ盡シフ
タルヲ誠ニ喜ビ堪ヘイハリデアリマス

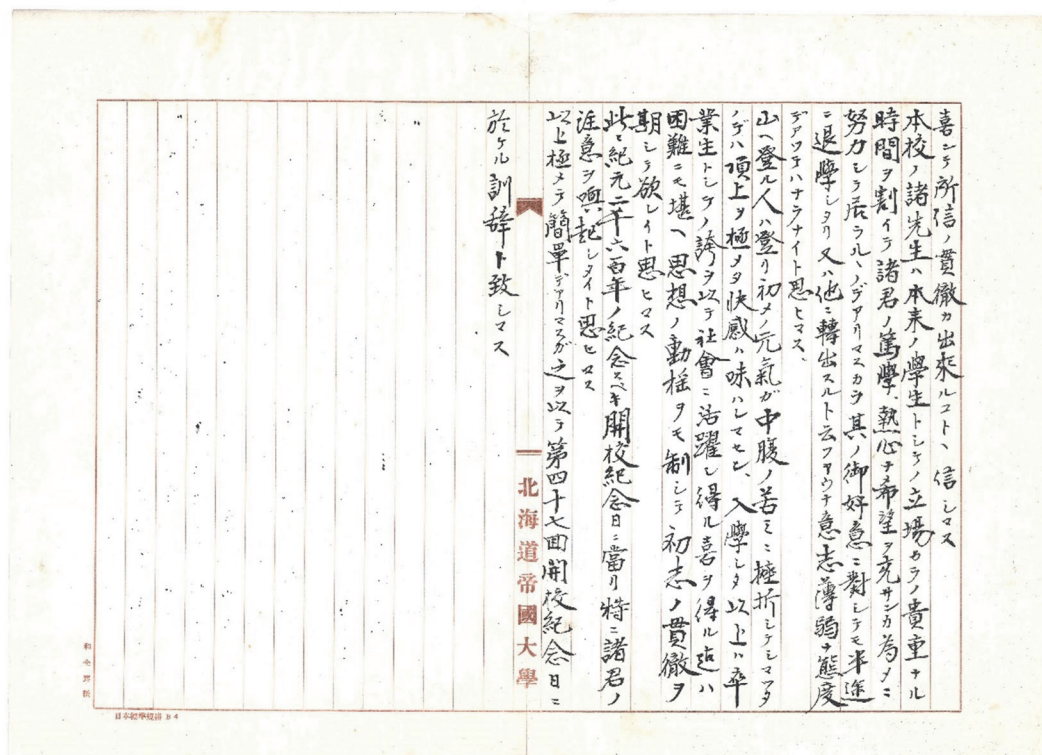
次ニ在學ニ主役諸君ニ一言ヒタイト思ヒマスハ諸君ハ日中
一途職業ニ従事セラレ疲レタ身体ヲ以テ本校ニ通學セラレ
本校所定ノ學課ヲ履修シテ居ランコトハ誠ニ敬服ニ堪ヘマ

セシ然ルニ斯ル夜學、通學スルコトノ如何ニ困難ナルカハ年々
本校ニ入學セラレ方々ガ最後迄繼續通學スル人ノ如何ニ少
キカニ依ツテモ明カニ所ヲシテ中途ニ挫折シテ廢學スル人ノ
多キニ驚カレタデアリマスガ一旦學志ニ決シテ本校ニ入學
ノ打主トナラシメテ謂フ遠友魂ノ持主トナラセタ人ハ種々困
難ト戰ヒ且後マタ努力シテ初志ヲ貫徹スベキアルト思ヒマス
元來諸君ハ本校ノ生徒トナツタ以上諸君ノ理想ハ諸君ガ
常ニ合ハセル校歌ニモ明カニ通リ決シテ朽スルコトナク充
テ名譽ヲモ地位ヲス權力ヲモナク人種ナル慾望ノ充
實ヲモナク寧ロ口ハ清イ眞人人間タルニナルデアリマス

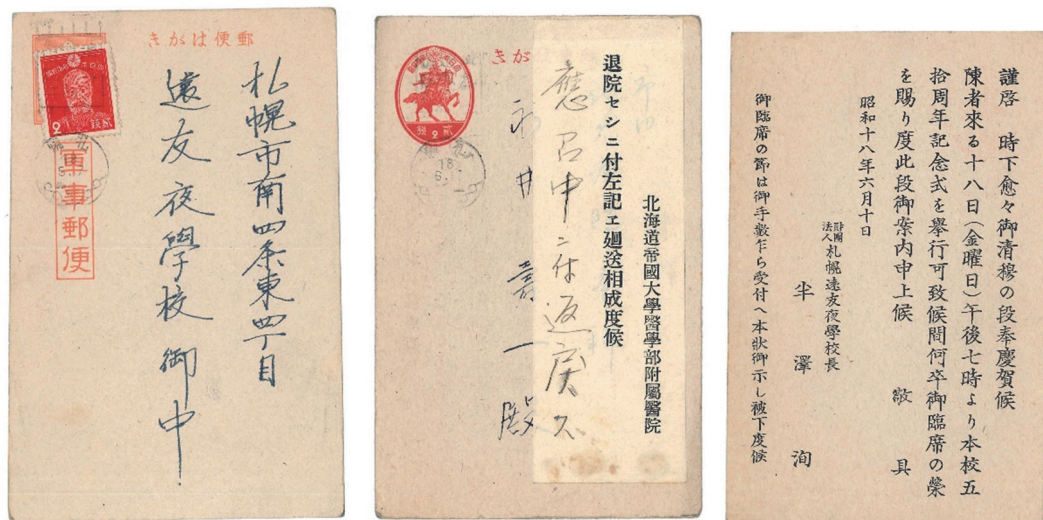
即チ信用出來ル常ニ感謝ト熱心ト以テ且後迄努力
ヲ傾注シテ事物ヲ成就セシムル責任感合ハ強イ人間的
眞ニ之ハ日本帝國臣民トナルヲ目的トシテ居ラルノデアリマス
此ノ根本ノ勤ナキ精神カ出來ラコソ如何ナル境遇ニ処テモ

日本報學報 94

北海道帝國大學



II-29 第47回開校記念日における半澤洵校長の式辞(1940年6月18日) 3枚目



II-30 戦時中の郵便葉書(1943年5～6月)

| 昭和十八年度行事報告 | | | |
|------------|--------------------------------|-------|---|
| 第一學期 | | | |
| 三月二十五日 | 生徒募集の看板を市内三分所に立つ | 六月五日 | 月次會開催 五十周年記念式の諸準備並びに之を實施に當る協議す |
| 四月一日 | 第一期開始式を舉行す | 六月十一日 | 春季運動大會を開催す |
| 四月九日 | 本年度入學試験を行ふ | 六月十三日 | 意々本格的に五十周年記念式準備に當る |
| 四月十二日 | 入學式舉行 | 六月十五日 | 札幌神社大祭に付き休校す |
| 四月二十二日 | 靖國神社臨時大祭の前日に付き第二時限に講義停止を參拜す | 六月十八日 | 創立五十周年記念式舉行す |
| 四月二十九日 | 式後月次會を開き、五十周年記念式準備、生活調査等に關し協議す | 六月十九日 | 第一時限に上場の後始末を済ひ、後教訓と生徒の座談會を開き、記念式の感懐及び來年の決意を語り合ふ |
| 五月五日 | 新入生歓迎總會大會を行ふ | 七月二日 | 生徒の身體検査を行ふ 後縁福澤水浴行會を開く |
| 五月六日 | 五十周年に當り校友生各氏存続の意圖を以て北海道新聞に廣告す | 七月三日 | 銭湯水浴 |
| 五月二十八日 | 「海草」を絶見す | 七月四日 | 快晴に惠まれて一日と夏の海邊に愉快に過ごす |
| 五月二十九日 | 生徒身分生活調査を開始す | 七月十日 | 第一期終業式 今年は教訓勤勞作 |

五

三

六

案に出勤の爲同年より早く終業す

第一期講習會

第二期講習會

札幌高等法律經濟學科、二階出園教室を使用して授業を開始す

第二學期

個人試験を行ふ

第二期開始式を行ふ

海軍警備隊として入隊される山田光男先生の社行式を行ふ

教訓講習會を行ふ

アツタ島玉砕勇士合同慰問會に付き演説式を行ふ

健步會の想定なりし降間の爲中止す

月次會開催す

十月 十四日

十月 十六日

十月 十七日

十月 二十七日

十月 三十日

十一月 一日

十一月 三日

十一月 十日

十一月 十六日

十二月 五日

十二月 八日

十二月 九日

十二月 十九日

學校参観

午前中形勢國民學校を参観し、夜間中級の授業を参観す

山田本太郎先生の講演あり

運動會を校庭内にて行ふ

入當される教務先生の社行式を行ふ

教習勤勞記念式を舉行す

明治節拜賀式進行

北海道社會事業協會懇談會本校教務主任に於ける

學校防犯計畫を草擬して官廳に提出す

月次會

大東市戦中二十周年記念式 式後護國神社に参拜して遠見完遂を祈願す

映画「海軍」を絶見す

第二期終業式 式後編輯會大會を開く

第三學期

五力拜賀式を行ふ

第二期開始式 会場等より愉快な一夕を絶す

月次會開催

二月 十一日

二月 二十日

三月 四日

三月 六日

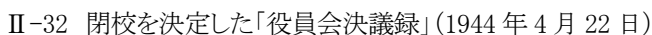
紀元節拜賀式を舉行す この休き日に當り市道署警察の御旨を以て御下賜金を賜ふ

於此「あゝの母」を絶見す

卒業生総別開會大會を行ふ 感謝深き會なり

卒業式並びに終業式を舉行す

II-31 1943年度の遠友夜学校行事報告(1944年4月)



8. 写真図録

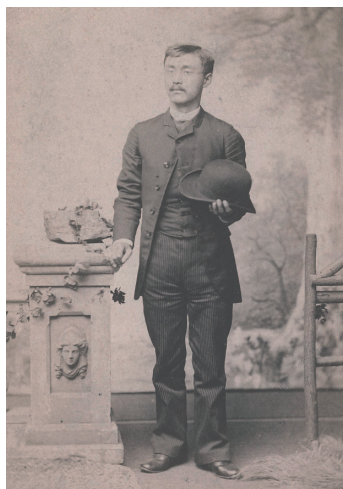


図1 新渡戸稲造（1885年）



図2 新渡戸夫妻（1891年頃）



図3 宮部金吾（1894年）



図4 札幌農学校基督教青年会（1893年）



図5 札幌基督教青年会（1896～1901年頃）



図6 大島金太郎を囲む予科生たち（1898年）



図7 遠友夜学校第6回卒業記念（1904年）



図9 倫古龍会の男子生徒と教師たち（1906年）



図10 董会の女子生徒と教師たち（1906年）



図11 男子生徒と教師たち（1905年）



図14 初等部の授業風景（1930年頃）



図15 初等部尋常科1～3年生（1923年）



図16 高等科1年生と教師たち（1923年）



図17 銭函海水浴（1920年代）



図18 北大植物園の見学（1920年代）



図19 運動会の運算競走（1920年代）



図20 運動会の競技風景（1920年代）



図22 高倉新一郎先生の送別（1928年）



図23 卒業式（1920年代）



図24 初等部2・3年生と教師たち(1929年)



図25 初等部4年生と教師たち(1929年)



図26 初等部5年生と教師たち(1929年)



図27 初等部6年生と教師たち(1929年)



図28 中等部1年生と教師たち(1929年)



図29 中等部2年生と教師たち(1929年)



図30 中等部3年生と教師たち（1929年）



図31 中等部4年生と教師たち（1929年）



図32 中等部の授業風景（1932-36年頃）



図33 校旗入魂式（1931年）



図34 クラス対抗野球戦（1930年）



図35 中等部生徒のピクニック（1930年）



図36 中等部生徒の空沼岳登山(1929年)



図37 銭函海水浴(1930年)



図38 倫古龍会第615回大会(1930年)



図39 倫古龍会第618回大会(1931年)



図40 中等部生徒の寸劇「金と銀の斧」(1930年)



図41 谷口信一先生担任クラス(1934年)



図42 蜘蛛や蚊等を演じた生徒たち



図43 中等部3年生の演劇「検察官」



図44 演劇衣装をまとった生徒たち



図45 英語劇「ウィリアム・テル」(1931年)



図46 演劇「海彦山彦」



図47 学芸会演劇の出演者たち



図50 新渡戸稲造校長遙拝式（1933年）



図51 有島武郎先生の追悼式（1935年）



図52 倫古龍会弁論部の大会（1935年）



図53 倫古龍会弁論部の大会（1935年）



図54 倫古龍会弁論部の大会（1936年）



図55 倫古龍会弁論部の大会（1938年）



図56 新渡戸メアリー校長遙拝式（1938年）



図57 中等部1年生の「戦場の月」（1938年）

9. 大判写真図録



図8 大島金太郎を囲む生徒と教師たち（1906～1907年頃）



図12 新渡戸夫妻を囲む遠友夜学校生徒と教師たち（1909年6月8日）



図13 有島武郎先生の送別（1915年3月28日）



図21 高倉新一郎先生の送別（1928年3月23日）



図48 新渡戸稲造校長の来校記念講演（1931年5月18日）



図49 新渡戸稲造校長の来校を祝して（1931年5月18日）



図58 卒業記念（1939年3月）